第五百參號目次

◎社說
年首正言
基督教の公認
朝鮮及支那

◎隨感
冥途一里塚◎冥途、幽靈◎神機一轉の妙◎初日の出◎史傳讀み◎史傳實際の苦學◎如何にして大キサを識る◎奈何して重サを覺る◎丈夫の痴情◎幼兒は成長なり

◎評論
藤侯實歷を讀む（井上次郎）
醉ひの評論（有美）
松上鶴（湯谷礎一郎）

◎家庭
新年の後圃（左學女）
淚のあさ（有美妻）
初夢（山下石翁）
家庭のゆかしさ（有髯男兒）
賀時、忍び音の歌

◎教育
新小學、新塾舍

◎講義
女子特異生理（靑柳有美）

◎女學
女禮、武藝、及勞働

◎亞米利加だより
加奈太二大學の女生（櫻井鷗村）

◎雜錄
正月の觀（山形東根）　元日の感（紫學女）
法教の歌（惡魔の子）

◎寄書
樂界微笑錄（露草）

◎新刊書
修養錄◯女大學評論、新女大學（ベスト

◎片々

◎時報

社告

◎本誌は毎月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す

◎十日發行の分は稍や平易實際の記事を專にし、第一、家庭の整理改善に益あるべき事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學宗教及び教育等に對する吾黨の卑見を陳述し、大に世上君子に問はんとするを旨とす。

◎單に十日發行の分 み又は廿五日發行の分のみと指定して所望せらるるものあらば其の需めに應ずべ

●女學雜誌定價表●

前金	壹册定價	拾錢
	半年分定價	壹圓拾錢
	一年分定價	貳圓
	（内國無郵稅）	
	代金は總て前金にて御注文ありたし◎年來引續購讀の諸君にて前金切れ候共御斷無之間は引續き發送することも可有之事◎但し其節は總て一册十錢の割にて計算し追て請求可致事是れ甚に不本意乍ら計算の煩はしき不得止左樣仕候間かねて御承知置被下度候	
廣告料	一行（廿二字詰）一回	前金拾錢
	同　三回以上	一割引
	同　六回以上	二割引
送金	送金は東京巣鴨郵便支局に宛て小爲替にせられたし◎郵便切手にて送らるる人は總べて一割増にて計算せられたし	

明治三十三年一月十日印刷
明治三十三年一月十日發行
發行兼編輯人　巖本善治
印刷人　布川孫市
東京府北豐島郡巣鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所　女學雜誌社
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場
（電話番町十九番）

田口卯吉君序
栗原亮一君序
根本正君跋
ガルスト單税太郎遺著
小川桃花　川井運吉　靑柳有美　校定

單税經濟學　全

定價金三拾錢　郵稅金四錢　著者肖像小傳入（既刊）

如今孰れの國家にも、孰れの社會にも、前途に橫はる憂ふべき大問題あり。社會問題は即ちこれ。故を以て、志士論客の之に對する策論經綸一にして足らず。而も著者は尙ほ、其抱懷を世に公にするの必要を認む。本書は專らヘンリー、ジョーヂの學說を祖述し、土地國有、地租單税、自由貿易、特占事業の廢止等を以て、來るべき大問題を解釋せんとするものなり。

著者ガルストは日本にあること十六年、日夜之が爲めに憂思し、遂に一命を獻じて逝く。その晩年に及んで血と淚とを灑ひで著せるもの即ち『單税經濟學』の一篇也。今や一週忌日に際會し、玆に嚴密なる校定を加へ、公刊して以て江湖に頒たんとす。願くは購讀を賜ひて、著者が至誠以て日本邦家のために憂ひたるの熱情に酬ひられんことを

東京京橋區彌左衞門町

發行元　經濟雜誌社

取次所　女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第五百三號

明治三十三年
一月十日發兌

社説

年首正言

一歳の死して送られ、一歳の生れて迎えらるゝ、年暮年頭の推移に觀ぜよ。其の岐るゝ所は、時計の一秒時、鼓動の一脈時にすら足らざる程にて、眞に刹那に過ぎず。刹那に過ざる此の小間隙に、送迎あり生死あり喜憂ありと思ひ見れば、人生の現在未來なるものゝ消息も略ぼ窺がひ知られて、榮枯盛衰の驚ろきも一笑の外なきとに悟らるべし。然り、一笑の外なしと大悟して而して後ち目前の變化流轉に會遇すれば、山は泰然として動かず、水は洋々として流れ、泣く人は不惑にして、邪氣ある人は惡らし。扨て人間と生れたる以上は、人物となり、在ん限りの智を磨き、眞を覺り、美妙を味はひ、出來べき丈けの力を盡して、當代と、邦家と、人生との爲に勉強したしと思ふ本意は、泉の湧く如く、花の開く如く、只だ自然に催ふし來るを以て、乃はち自然に其の如くするの外なし。豈に他あらん哉。世に逆境順境を別つものあり、無論其の別なきにあらざるも、同もに吾が境にして逃る可らずば、左して區別する所以を見ず。順境にも怠たるまじき由を學びたれば、更ためて逆境に落膽すべき理由はなし。順逆を向背に喩えて日の當りの善きと、惡きとに思ひ比ぶれば、東行の時もあり西行の時もありと勘辨して、只だ吾が歩みを違へざる迄の事なり。世事、日に非なりと歎くは、志士の常套語にして、斯く言はざれば歷史的の趣味なきやうに感ぜらるゝともあれど、斯る放言に日を消して、他人に慷慨談を聞せつゝ暮すなどは、少しく手間ぬるきとなり、吾は斷たて爲じ。一切の責め吾にありと感じなば、何の暇まありてか、人を責め、人を恨まんや。人事茫々際涯なく、風呂敷を以て世界は

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

包みがたきことを知れども、機の基ひを轉じ、勢ほひの源頭に水そゝぐときは、個人が隻手の爲す所ろも存外の影響あり。左らば、人に向つて責むるものは、先づ須からく自から責めべし、人に向つて憤ふるものは、先づ自から憤ふるべし。冲々たる苦學此の邊に存す、他に何等の學問かある。

凡そ因果は綯なへる繩の如し、何處を最始とし、何れを最終とせん。因は乃はち果、果は即はち因とならん耳。左れど、期を分ちて試ろみに分別せば、仔細に元因結果の先後はあり。責むるものは、先づ其の元因に付いて責むべく、徒らに其結果を追ふべからざる也。今や、一代の腐敗を痛歎して、特に銅臭の人を酷罵すと雖ども、彼等何の故に斯く錢を貪ぼるやと問へ、皆な投機的暴富の末、誤まつて其の難局に陷いりたるが故にあらざるはなし。而して、何故に一時斯の如く投機に狂ひしやと問はば、近時にあつての元因は皆な日清戰爭に關連せざるはなく、人氣沮喪の元因は、遼東還付に關係せざるはなく、經濟難は、軍備擴張より影響せざるなきを見ん。而して、此事に關して最大責任あるものは實に伊藤侯にあらずや。然れども、世人は伊藤侯に謳歌するの口を以て、同時に今の經濟的腐敗を責めんとせり。事理を顚倒するも亦太甚しからずや。

左れど、之を伊藤侯唯一人に歸せんとするは、初め日清戰爭の機を決したる最大力量を侯一人に歸せんとするもの也。侯や如此く勢力あるものにあらず。當時に在ては、一代皆な醉へり、其責も亦た一代名士の均しく負ふべき所ろなり。たとひ今ま銅錢に潔よく、收賄に疚しからず、隆んに彼の某々を攻擊する志士其人と雖ども、遂に亦た自から責むるの地に迄で自反せざる可らず。

故に言はく、功過を論ずる勿れ、彼我を問ふなかれ、榮辱を別つなかれ。人生泡沫の如く、生死夢幻の如く、送迎盛衰の差、年の行き年の來ると相似たりと悟つて、只だ當面の義を務め夫に滿腹の力を施こし、盛んに經綸し、苦んで學び、一生を貢献して只だ勞することを厭はざれ。現代、何をか求めん、求めべき程の價値あるものなし、何をか恐れん、恐れべき程の人もなし、誰に賞められん、賞められてうれしき程に尊とき人もなし。我、我にして我が爲さゞるを得ざるの情を發動せしむ。斯の如くして日輪を見て仰ひで恥ぢず、斯の如くし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て月に歌ひて俯して吟ず。人生の行路この外になし、年暮年頭の時感、まさに此を最とす。

基督教の公認、傳道法の一新

或る縣下にて、縣廳に近く巍然たる基督教會堂を建てたるとあり。其地方村落の人之を見て驚歎して云く、キリスタンは害なきもの乎、縣廳の傍に建つことを許さるゝを見れば、最早害なきものとなりしならんと。

之れ八九年以前の事なれども、今も尚ほ斯の如きとは尠なからじ。而して、政府今や宗教法案を出し、耶佛神道を平等に視たり。假令ひ議會に於て通過せしめずとも、政府の意向は之によつて明らか也。各地人心の變動察すべきなり。

夫れ、宗教の公認とは、其の効果煥發して次第に人心に徹し、人心之を認ためざらんとするも得ざるに至る、即はち眞との公認なり。何んぞ、政府の公認すると否とに由て宗教の輕重を爲さんや。斯の如きは、固より教法士の初めより承知し居るべき筈なり。

（三）

左れば、政府の眼中に於ける公認の態度は、左して悦こぶべきとにあらざるとするも、抑そも亦た渠をして斯の如く公認せざるを得ざる迄に至らしめ、民間多數の聰慧なる輿論をして皆な此法案に賛成せしめたる迄に、亦た渠等をして之を公認せしめたるものは、豈に實に日本基督教の効果既に顯然として發揚し得たるが爲にあらずや。

實勢既に斯の如し、基督教界の傳道法なるものも、亦一段の進歩を爲さずして可ならんや。何日迄も廣告的に、道の衢、往來の隅などに説法することを唯一の方法と信じ、更に高一等の着眼と、深一層の修藏と、聖一段の抱負となきが如くなる、寧ろ惜しからずや。

基督教界の教法士、正に一代の師表を以て任じ、王侯相將を招いて、壇下に三拜九拜せしむるともなく、たゞ追尾して門を叩かんとのみせり、是れ必ずしも傳道の慈悲ならんや。

又、教法士、何んぞ山に入るものゝ少なき。山に入るは、山に招くの方なり。古しは釋氏の徒も、斯の如くして、一山を開きたり。桃李尚ほ人を呼び、幽谿の梅、探意を促がす。山に入るものの豈に必ずしも、世に遠ざかるの謂ひならんや。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

又、敎法士、絕えて奇跡神秘の趣味なく、一概に外來事務的の時習にかぶれ、俗才あり、事業あるを以て、文明流の傳道となす、亦大いに誤まらずや。

朝鮮及支那

今年は取別けて、朝鮮及び支那の問題の多き年ならん。

何故に朝鮮を笑ふ乎。朝鮮は、支那を父とし、日本を母としたり。兩國に兼ね仕へて漸やく一國を維持したるが故に、其國の獨立とは、即はち二國以上に曖昧に臣屬するとにてありき。國粹斯の如くして熟せり、一國斯の如くして存したり。左らば、今の朝鮮の國風ある所以、怪しむに足らんや。今更めて之を笑ふものは、笑ふものの笑ふべき也。朝鮮にして今ま少しく獨立心ありしならば、其國は夙に何れかに合併せられ、李氏の世統は斷えたるべき也。

何故に支那の愛國心を疑ふ乎。支那に常國なし、二十數變せり。今の支那政府も亦た其の外國にあらずや。彼等にして餘り愛國心あらば、四百餘州は統一せられず、今の大帝國はあらざりしならん。彼等が政府に信ずると薄くして、平人に信ずると厚く、團躰に信ずると貧しくして、個人に信ずると温たかなる所以、無論にあらずや。彼等は戰爭の結果を知悉せり、戰爭によつて最後の勝利なきとを知れり。たとひ政名は奪はるべきも、實利は奪はれざるとを知れり、たとひ國は領せらるるも、國土は奪はるべきものにあらざるを知れり、亦何をか愛へんや。帝室一系、君臣同族の我國粹を以て、彼を評するは、愚の至りなり。

左れば、朝鮮の朝鮮らしく、支那の支那らしきは、今更ら驚ろくべきとも、痛たむべきともなし。隣翁元來疝氣を持病にせば、疝氣も亦た可ならずや、何んぞ吾が頭痛となすに足らん。エルサレムの娘は、其身の爲に泣け、吾國の志士は、彼等の爲に餘計の慷慨は要らず、只た我國の爲めに慮ばかるべき也。

我國率土も王土にあらざるなし、而して王の權は唯だ土地の上のみならず、無形に其の權域は存す、之を讓る一步なれば我皇の權一尺を縮むる也。之れ豈に忍ぶべけんや。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

随感

〇冥途一里塚

屠蘇に酔ひ、門松に倒れかゝりて新年に狂ひ、絶えて哀れに思ひ到らぬは浅々しき限りなれど、ただ其の哀れに思ひ到るのみにて更に一段の幽思なき、亦た殘り惜し。むかし禪師の冥途一里塚と言ひけんを讀みて、偏えに無常迅速の意にのみ聞とらんとする、寧ろ陳からずや。夫れ、無邊の空間に居座し、無限の時間に呼吸する人間の生涯は、幽遠玄邃、深く且つ妙なるものを、一年役々、日として土塵に匍匐ふの外なかりし吾も、歳盡きて斷岸絶壁に臨むに至れば、頓に回顧長望して、悠たる物思ひなきを得ず。乃はち是れ幽冥靈邃の界に覺觸すべき聖機なり。靈眼玆に目醒め、神動之より發す、魂に羽あり、魄に翼あり、當に逍遥遊を試ろむべきの時、士人大得意の所にあらずや。昔し人、歩々陥穽ありと言へり。吾は、年々天に穴ありと言はん。年末年頭、立て此穴よりして幽冥界を窺ふ。之を冥途の一里塚とは言ふなり。

〇冥途、幽霊

冥途、幽霊、なんどの文字に、暗鬱憂怨の意義をのみ添えんとするは、今の文界の誤まりなり。冥途は、老子謂ふ所ろの玄冥に通ふべき途をも含めり。幽霊は、基督仰せらるゝ所ろの楽しき天の使をも含めり。之より後ち、文士、其の意義を一新擴張せずんばある可らず。

〇神機一轉の妙

一年の玆に盡くる時、一年の玆に始まる時、首尾相接す。其間隙、刹那も入らず。而して、人心の轉化すると、奈落の底より九天の頂に登るが如し。神機一轉の妙とは斯の如きをこそ言ふなれ。

〇初日の出

太陽登る。霜溶け、氷弛るみ、草踊り、木動く、万人快哉を呼ばざるなし。光來ると、何十億里、而も温たかきと斯の如

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

し。光散ずるヿ、何千億里、而も汎ねきヿ斯の如し。之を眺むれば、眇たる一日輪、而も赫々たるヿ斯の如し。嗚呼、太陽、徳化洪大、威望高絶、憂思を散らし、欝悶を拂ひ、愁眉を擴ろげて人をして自から爽壯ならしむ。詩人、何んぞ太陽を歌はざる、歌人、何んぞ太陽に吟ぜざる。

○史傳讀み

歴史を好み、傳記を愛し、多く讀み多く辯じて、至つて其途に精はしげなるものあり。世上、亦た渠が評論を聞きて隨喜するものも尠なからず。われは、其の主張と渴仰とを見聞し、時として、獨り失笑するヿあり。何んとなれば、言ふものの實際を知らず、聞くものの實際を重んぜざればなり。夫れ、今を知らざる者、安くんぞ古を知らん、目に見ゆるものを愛せず、如何で見ざるものを愛せんや。大凡そ、史傳を論ずる人の識見如何あらんかを識得せんと欲せば、先づ其人の現時勢に對し、現代人物に對し、包圍關係の諸人に對する批評眼の如何なるかを看よ。渠もし現代の事に於て謬まるあらば、何んぞ其の古代の事を言ふに信を措くに足らんや。渠を以て讀書家と言ふヿを得べし、識見家と言ふヿを得ず。かの活勢を知り、人物を見る、豈に讀書にあらんや、只だ識見にあるのみ。

○史傳實際の苦學

現代の時勢を識り、當代の人物を見る、座がらにして能くすべし、何んぞ、周旋と訪問とに依るヿを用いんや。若し審びらかに尋ね、精やかに考えて、仔細に前途の形勢を憶測し、之を自から記して而して徐々實際の現象に當査すれば、其の當れると否とに鑑みて、以て吾が識見の精粗高低を自覺するヿを得。之れ、實際に時勢を獨學する工夫なり。人を見る亦之に同じ。苟くも當代に居住して、當代の人を知らずんば奈何んせんや。而して、當代の人を知るとは、必らずしも之を見るの謂にあらざる也。先づ、彼が生地を知り、彼が族戚を知り、彼が敎育を知り、彼が經歷を知り、彼が交友と事業と抱負と逸事とを知り、而して彼が性格、氣品、伎倆、將來に對し、吾が一個の見込を立て、而も容易に公言せず、密かに其の實際と、進歩とに徵して、着々吾が見込の當れるや否や

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

を吟味す。之れ、實際に當代の名士を學ぶの工夫なり。人もし斯の如くして苦學すると十年ならば、略ぼ眞髓を看破するの秘訣を得ん。而して飜つて之を古代若くは異邦の事に用ゆるに、略ぼ要領を得べし。人苟くも此途に由ずして能く他を識り得たりと言ふ者あるも、吾は容易に信ぜず。

○如何にして大きさを識る

立たる樹木を眺めて、左程大きく思はざりしものも、倒れて下に横はりたるを見れば、存外に巨大なるものなり。死せしのちに人を觀る、之に同じ。

○奈何して重さを覺る

大事に載せ、大牛に牽かせ、多人喧囂として漸やく動かしゆく重量の器物も傍はらに立ちて眺むれば、重げに見ゆるともなし。左れど、一と度び手を假して之を押せば、直ちに其の不動萬斤の味ひを覺る。

○丈夫の痴情

女は、己を愛するもの丶爲に裝ほふ。左れど、愛せざるものの爲にも尙ほ裝はふは、女の情なり。士の名聞に拘つろふと亦た斯の如し。擧れを知己に得て悅こぶは當然なり、左れど、我に反くもの、並びに吾が眼中に置かずと迄で言ひて輕んずるものにも尙ほ知られんとを欲す、之を士の痴情となす。眞に能く此の羈絆を脫したるものは、太はだ稀なり。

○幼兒は成長せり

正月三ヶ日は、當然遊ぶべき日の樣に思はれ、此の間、仕事に着手するは、何となう神聖を侵せしやに感ぜられて、敎徒が安息日を破りしと云ふとにも優りて異樣の心地せらる。此間のみは、天下晴れての遊樂ぞと吹聽して、盛んに公けに子供と遊びつ丶ある時、唐人が欠株楡と歌ひし句を偶と憶ひ起し、只但だ一人無きもののありけり、幼な兒の大きくなりしも、遊びに老巧となりしをも見得ざる人のありけりと思ふ心を、頭を回えて忽まち斷念す。無邪氣なる子供こそ幸はひなれ、遊びの外餘念なき子供こそ極樂なれ。いざ吾も同もに幼兒とならん。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

評論

藤侯實歷を讀む

井上次郎

坊間、『藤侯實歷』と題する新刊書を見る、一に題して「伊藤博文侯直話」と云へり。斯人の自慢話を聞くも亦た年頭餘樂の一興なりと思ひて、一夜通讀したりき。凡そ人は、如何樣に秘するとも其の自負する所を秘する能はず、況んや春畝侯得意滿潮の盛時に於てす、其の多く語る所は、其の尤とも誇る所ならずんばあらず。而して一代の自負する所ろ果して斯れか、余は寧ろ憫笑を禁ずる能はず。

侯が尤とも得意とする所は、憲法の制定にあり。而して、其尤とも慘澹を極めたる苦心の存する所「君權を定めて民權を限る」の一事にあり。其屢ば主張して尤とも力を寄する所ろ、帝國憲法の君主賦與的にして、外邦の如く民主强奪的にあらずと言ふ所以のもの、即はち是れ也。

然れども、試ろみに冷頭を以て靜思せば、帝國憲法を起草するものは、何人と雖ども遂に此の大綱に贊同せざるものはあらじ。豈に獨り伊藤侯を待つて初めて此の國躰を知らんや。

帝國臣民忠良の意思發する所ろ、必らずや遂に此に到着すべし。然らざれば、千古涵養する所の國民忠懷の情操と相容れざるなり。但だ夫れ伊藤侯よく此の國躰を看破し、此の民情を洞察したるは以て優れりとすべきか、亦何んぞ然らん。此の國躰の發揮と、此の民情の煥發とは、德川氏末造の志士の絶叫せし所ろにして、維新改革に由て成れる所ろ、苟しくも明治政府に衣食せしものの知らざる所ろならんや。況んや大久保甲東早く其の卓眼を着し、夙に大躰を觀取して、確然として嚮あり、親から憲法草案の大綱領を記して伊藤侯に授けたりと云ふもの、既に全く彼の大主旨を盡せるをや。伊藤侯たる者、只だ其旨を受けて布延し、別に小節目を增補修正したるに過ぎず。宛然是れ法制書記官の爲すべき所ろ、豈に大臣の局宇を以てして之を誇るの價値あらんや。

然りと雖ども、伊藤侯の尤とも誇らんとする所は、此の書記官の事業にあり。侯は、他日此の憲法を生み出すべき維新改革の實戰には、何の關係もなかりし。明治政府の重鎭たるべ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

き南洲甲東の關係には毫も與かる所ろなかりき。反つて其の南洲を見るも、政治家にあらずとし、甲東を見て、法制の才乏しかりしとをほのめかし、暗に之を輕んぜんとす。嗚呼、侯の政治を見る、只だ法制の上にあり、侯の誇らんとする所も亦た主として法制の上に存す。試ろみに問わん、法制の能く制定せらるゝ所以、法制の能く行はるゝ所以、何に由て然る。苟くも、國家の樞機を握らんとせば、當に此の實權實力の伏する所に向つて着手すべし、他は餘波に過ぎざるのみ。重鎭の存する所ろ主權あり、主權ある所ろ、政機ひそむ。徒らに法制の美を求めて主權の在所を空論せんとする如き、必竟、政治家の事にあらざる也。

侯曰く、天智帝の改革によりて一天万乘の天子、各臣民と直接し、初めて郡縣の制度となれり、然れども亦た藤原氏ありて門地世襲となり、王政衰ろへたりと、侯すでに此の歴史を知る、左らば、法制々度の建設は、其の建設の美なるにあらずして、其實行の美なるにある所以を見ずや。假令ひ、文臣之を制草し、勅旨之を宣定せらるゝも、實力の動く所ろ、遂に之をして空文たらしむる難きにあらず。侯は其の憲法の制定によりて、此憲法自から長久に活動すとなす乎。今の政府、憲法ありて後ち尚ほ第二の藤原氏あり、門地世襲の如くして、王政の仁尚ほ民心に霑はざるものあらば奈何ん。侯は尚ほ其の實効を問はずして、只だ憲法に誇らんとする乎。

嗚呼、憲法を慕ひ、議會を慕ひ、責任内閣を慕へる人よ。皆な是れ空名と知らずや。單に其の名を慕ふとを知つて、其實を思はず、名を得て而して實なく、年々依然として元の如し。もし民間の士人にして此の空想を止めざるほどならば、伊藤侯が盛んに其功を誇るは正に相當せり。何んとなれば、民間士人の大に景慕する所のものは、伊藤侯之れを遂げたればなり。

余は深く望む。政治の本色の悟らるゝと更に實際的にして、其の批評眼の一層眞贄ならんとを。今の政治論は、眞政を問ふにあらざる也、只だ制度の美を求むるのみ。試ろみに之を一家に問へ。完美なる規則を造るとは太はだ易し、其の少しく可なる實際を行ふすら、極めて至難なるとを覺らん。今の政治家は、家庭に臨んで只だ文筆口舌を弄するが如し。其功、權助の水一杯を酌み得るよりも劣れり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

酔の評論

悪魔の子　有美

《魂を酔はするは其の罪酒と煙草とより重し》

《酔は物理的にエゴーの比重を輕くし化學的にエゴーを二元素に分解す》

《酔ひの狀態は夢幻の狀態に同じ》

屠蘇の機嫌にヨロ〳〵と、足も千鳥によろめけるにもあらねど、我れは、曰ふ酔ふといふほど怪しきものはなしと。すでに酔ふといへば、一概に酒に酔ふこと、煙草に酔ふこと、さては阿片クロロホルムに酔ふことなりなど思へど、酔ふとは豈にたゞかゝる淺墓なることのみかは。世には酔へるとは知らずしてしかも、自ら酔へるものあり。こは戀に酔ふことなり、法敎に酔ふことなり。酒と煙草とに酔ひて、前後の辨へさへなきまでに、グデ〳〵の亂れ姿となれば、こはこよなき痴物の如くに取りはやせど、今の世の君子は、戀に酔ひ法敎に酔ふをば、情け深き人、淨き人などゝ途方もなき囈言吐きて、こよなくもて囃すなり。酒飲みて顔赤らめ、煙草吹きて怪しき香ひ起こすは、不德にして穢れたることなれども、戀の熱に浮かされて顔青ざめ、法敎の行事に智慮を欠くに至るは、是れ神聖にして勿躰なきことなりとよ。あゝ戀愛は神聖なり、法敎の行事は勿躰なし。されど聞け、古き聖者の遺敎に曰く、爾曹その身を傷け殺ろさんとするものを恐るゝ勿れ、たゞ爾曹の魂を燒きて地獄の火に投ぜんとするものを怖れよと。もし人の肉を酔はしめて、魔魎の誘ひに入れしめんとする酒と煙草とは、咒はるべきものなるべくんば、人の靈魂を酔はしめて、獸に似たる行ひせしめんとする戀は、更にまた咒ふべきものならずや。酒と煙草とは肉躰を酔はしむるなり、其罪や輕し。戀愛と法敎とは靈魂を酔はしむるなり、其罪や至つて重し。特にをかしきは、酒と煙草とを惡魔の賜物の如くいひなす人の、多くは戀に酔ふて其前後を忘れ、難有きリバイバルに浮き身をやつす族輩なることどもなり。されど飜然として大悟すれば、酔ふとは、天地の善神が人間に垂れ給ふ大なる御慈悲にして、又大なる祝福なり。人の魂にして若し時折りの酔ひありて、リバイバルめける法事勤行に浮かれて法敎に人生の苦しみを諦め慰むるに非ずんば、人心の痛辛悶絶は、それ如何ばかりぞや。魂の酔ふこと、もし我が善神の御慈悲と祝福とならば、肉身の酔ふこと、豈に又我

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

が神の惠みならずといふの理あらんや。人よ飮みて歌へ、而して杯を擧げ我が善神の大慈大悲を讃頌せよ。酒は神の下し給ふところなり。煙草も又神の賜ふところなり。禁酒禁煙を、道德の精髓宗敎の玄奧なるが如く誤まり思ふ人の哀れさよ。

カーライルはいへり人生はリヤル(實現)なりと。されど我はいふ、人生は魔醉なりと。あゝしかも是善神の御慈悲なり。

我れは今茲に、戀と法敎とに醉ふことの、如何なるものなるかを說かざるべし。また煙草に醉ふことの如きも、暫く之れを措く。たゞ酒に醉ふことの如何なるかを說かん。

醉ふとは、之を物理學的にいへば『我れ』なるもの丶比重が、著しく輕ろめられたることなり。故に、人杯を受くると多ければ、その胴躰は何となく身輕きものとなりて、恰も風船球を結びつけられたらん時の如く、心胸常に勝ぐれて爽然たり、快いふべからざるに至る。されば、意志の力と智力とは、著しく薄弱となりて、辨異統同の能力頗る減退し、其人の手は、不思議にも心意の支配を蒙ることなくして、切りに輕く動き、鼓つものあらば當に躍るべく、柄にもあらぬ輕語快調、泉の如くにして口を迸り出で、若し立ちて步めば、足又自

らに運ばれて聊の勞苦を覺えず、殊に梯子段をおり下る時の面白さと愉快さとの如き、實に譬ふるに物なく、足は滑かに輕く落ちて、或は階段を誤り履み外づさんとするに非るやを疑へども、しかも過つことなく、一運動にして忽ち二三段をすべるの心地し、若し傍らに魔術師ありて、一たび妖杖を動かさば、直に羽化登仙せんほどの心持ちとはなるなり。又五官は漸く痴鈍の界にすゝみ、我が談るところを我れ聽く能はず、凡て行爲と思想との間に統一聯絡を欠き、我が考ふるところを以て我が肉の行動を支配すること能はざるに至る。是に至りて、醉へる我れには、肉の『我れ』と靈の『我れ』との二つあるもの丶如し。

故に、醉ふとは、之を化學的にいへば、『我れ』の、二つの元素に分解せることなり。かの普通の狀態にありては、水は酸水の二元素より成れども恰も一つのものより成れるが如く、その作用單一にして、二元素の化合せるものたるを知り難し。されど、一旦電流を通じて化學作用を之れに及ぼせば、直に分解して二つの元素となるなり。人間の『我れ』も覺醒の狀態にありては、全く一つの如くなれども、素と是れ『肉の我れ』と

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

『靈の我れ』との調和聯合によりてなるものなれば、一たび『大醉』なるものによりて其化學作用を蒙るや、忽ちに分解して二つの『我れ』に分るゝなり。されば、かの大醉の時にありても、醉へる我れとは、果して如何なることをなすものなるか、詳に觀察せんなど思ひて、自らなすところの一言一行に深く注意し、之を精察臆記する如きは、之れ『靈の我れ』の、『肉の我れ』を注意觀察せるものなり。而して『靈の我れ』と『肉の我れ』とは、其性狀全く相異るを以て、『靈の我れ』は酒の作用を蒙ること殆んどこれなけれども、『肉の我れ』は酒に抗すること頗る弱く、その間の相隔ること、なほ金と銅との、酸に於けるが如し。是を以て、醉中なほ覺醒して動かすべからざるものあるなり。これを正氣の我れの切に泥醉せる我れの秩序なきに驚く所以なりとす。かくの如く、我れの二つの元素に分解するは、唯に大醉の時のみに限らずして、或る一種の刺戟に觸れたるとき、また屢々相起ることあるものなり。かの肉慾と良心とが、互に戰ふと稱ふるは、乃ちこの分解によりて起る現象なんめる。

また大醉は、頗る『夢』の狀態に似たるものなり。その五官の遲鈍となるは、實にこの『夢』の有樣の如く、而してたゞ亂雜なる連想によりてのみ念思し、前後に統一々貫せる思考を欠く如きも、全く夢と等しく、なほ瞬時にして戰を夢み室家を夢み、又高山に登るを夢みるが如し。かの手指の動くこと甚だ輕くして、聊かの勞苦を覺えず、足疊を履めば、恰も天人の雲の上を歩みたらんが如き心地して、身の輕氣球に釣りあげられたる思ひあるも、これその手の輕くして勞苦すること少きによるに非ず、又その足の容易に運び滑るが故にも非ずして、一は筋觸覺頗る遲鈍となり、その運動によりて生ずる勞作量を感知せざるによると、他は皮膚面の觸覺神經、また同く遲鈍となりて、疊と足うらとの接觸によりて生ずる刺戟を感應せざるによる。

惡魔の子が、醉を見ると誠に斯の如し。聖者と道德屋の如何に之を見んかは、我が關らざる所なり。茲に新春の始を迎て、古き行事の屠蘇にちなみ、乃ちこの『醉の評論』を作る。

松上鶴　　湯谷磋一郎

千代の上に千代をかさねて松か枝を
やとにしめてそあしたつのなく

家庭

新年の後園

左琴女

未だ幼き頃ぞ來る年〳〵元旦には必ず起る一つの不思議ありけり。

我等は第一二枚重ねた衣の袂の昨日に代りて長く美しきも嬉敷伯母よりもらひたる梅の花簪の色よきも嬉敷羽根も嬉敷鞠も嬉敷歌留多も双六も。數々嬉しき元旦なるに何故か母上一人は終日居間に籠りて臥てのみ在す此不審は毎年にて遂に生家にゐたる間は解ざりき。

丸髷に成しも紅梅深紅の手柄の頃は人も許し自分も未だ娘心の失やらで兎もすれば家事の何彼を打捨ておき。お正月近付く頃より着物の模様帶の撰擇に氣根を疲らし是をしも只管大事大用と心得たりしが。夫にて濟ぬはけふ此頃の我上なり舊臘は廿日過より彼の事此事一時に迫りて身神の繁忙譬ふるに者なし况して晦日大晦日になれば。抑我何を待とて斯迄混雜するとなるかと世の中味氣なく覺ゆる迄なり。漸々の事にて舊年を送り迎へたりな。明治三十三年を。今日は元旦嗚呼元旦。此頃ぞ知る前年不思議なりし母の元旦は現時正に我身の上に廻り來しなり。

美しくて長かりし我袂は短かく成ぬ梅の簪さすに由なし羽根なし鞠なし唯胸中浮ぶ所は彼の一休禪師の一里塚てふ句なるのみ。昨夜は闌く今朝は早起。加ふるに十日以前よりの疲は心のゆるみか今日俄に出來し様なるに。先兎も角もと居間に入しを初にて心ともなく元旦一日は夢にて過ぬ。

此地は婦人の廻禮を二日と定めあれば我も今朝は身を清め衣を改めて人々を待たりしがまだ早きか誰も來る人なければ此間に居村の新年の有様見んかと思ひたれど。よし表へ出たればとて大路に行かふ馬車は素より禿車一輛走りゐるには有ず。折よくば祖先代々傳りたる小紋の短き羽織召てチヨン髷は如何と頭の見らるゝ村の伯父御を四五人見かくるのみ寧裏より出て我一年の樂の大方を此所にとる例の畑に至り見んかと立出ぬ。

新年は新春ならねば是非も無けれど此所には霜除けの藁の下

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

纔二尺を天地として葉の色寒く傷ましげに見ゆるは水無菜菠薐草蔄蒿小松菜などの蔬菜なり。有情と非情は自然の別あるに非情を有情に見立るが我常々の僻なるが。兎も角人は屠蘇に醉て心長閑き今日なるに此圃には霜柱一面に立ならびて更に〱瑞瑞たらず凞々たらず。然れば此生氣なき蔬菜を見て我心少しも樂しからず何をがな神機の一新する者見出さばやとあたりの石に腰うち掛る一刹那此畑をめぐる練塀の外にて君が世を唱ふ兒あり千代に八千代を聞と等く我心愁然としぬ。しかも元日しかも君が世の唱歌を聞て我こゝろ愁然となりたるは。そも何故ぞ。

靜の今樣に「別の殊に悲きは親の別に兒の別極て實にも悲きは夫婦の別なりけり」と云ふがあり誠に極て悲きは夫婦の別ならんかし。此畑の外に一人の寡婦住り。素は村にて可なりに暮したりしに連れそふ夫放肆にして次第々々に資産傾き後には不義理も重りけん一旦他郷へ走りたりしに。夫の放肆益募りて果は妻子の飢寒も顧ぬまでのものと成ぬ。身一つならば何なる辛苦も厭はじなれど三人の兒の饑を叫ぶに正氣の親の何とし見ゐらるべき。落魄の姿を人に見らるゝ事は耻かしけれど兒の可愛に代らるべきかは兎も角も古郷へ歸りて縁者に救を乞ばやと三兒を引連れ村へ歸り來たりしは一昨年の秋なりき。親は泣よりの譬の如く縁者の人々氣の毒がりて此畑の外に少さな家を作りやりて四人を此所に。唯細々と烟をたて居るなり則ち今君が世を唱ひたる兒は此寡婦の長子なり。我此兒の顏を見此兒の聲を聞ける毎に。悲歎やる方なき母の心理を能知や。知も悲しく知ざるも又悲しと思ふなり然るに又はからず此所にて其聲を聞たれば。彼等四人今日は何なる事して此新年を迎へけるかと胸まづ塞りぬ。

亦靜の歌に「つらからば我もろともにさはあらでなどうき人の戀しかるらん」と讀たるがあり。我等女性の身のまづ恨めしきは眞に此情の去ぬが故なり。假令放肆なりと謂ども三人の兒の父なり假令我に無情かりしと謂ども十年を倶に暮せし夫なり。折につけ事にふれ思ひ出さで有べきや。彼の兒の目もとの似たるも涙此兒の聲音の似たるも涙し思ひきつて思ひ諦められぬは實に此寡婦の心なりかし。幽冥境を異にせし後ならば詮方なけれど斯寡婦の如きは夫の精神さへ正しくならば直にも天與の幸福を得らるべきに。何事ぞあたら男と生れ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

なから魂一つを持損なつて献身の妻分身の子をして斯る悲境に沈ましむるとの不甲斐なさよと。獨り歎息なしゐるをりから婢女一人走り來たりて。誰れ樣彼れ樣唯今入らせ玉ひぬ早々内へと促しければ。然ばと家に歸りたるが。兎角心にかかりて悲しきは。さゞれ石のと。聲せし方なり。

涙のあと

有美妻

涙もこぼる小夜中に　君が玉章抱きしめ
音も漏さじと忍び泣き　なきては抱く君が文
文字も涙に流れける哉

* * * * * *

昔たれ枯木に花を咲かしめて　後の世までのためしとはせし

* * * * * *

末の松山浪も越え　名取の川の埋木の
よし花咲ん世となるも　君がなさけをなどかなど
忘るべきやは忘るべき

君をおきて誰に献げん　我が眞情くだけたりとも
うけ玉へ眞情のみかは　肉もなほ破れたりとも
納めてよ

* * * * * *

君と共に眺めまほしく思ふかな　手形わたりの春のあけぼの

* * * * * *

うき事の積らば積れこの上に
力も盡きよ身も果てよ　やがては咲かん梅の花
やがては鳴かむ鶯の　涙もあかの水となり
たむけの花とならんこそ　つひの望みと知らずやは

* * * * * *

年の暮われは涙にくれにけり

* * * * * *

水くきの跡も心もこぼる身は　初日のかけもよきて行くらん

* * * * * *

つかのまも夢のうちにも君を思ふ　あとたに止めよつもる白雪

初夢

山下石翁

一日の計は、旦にあり、一年の計は、一月にあり。一月も、元旦は先づ〳〵祝ひ一式にて事もなく濟ませ、たゞ無念無邪氣を可とす。扨て、去年を顧ひ、今年を念ひ、一歳の經綸を營みて、心に企だつるくさ〳〵の物思ひ、果して二日の夜の夢とはなるなれ。むかし孔夫子は聖人を夢みざるをもて憾みとせらる。夢は五臟六腑の疲れとも云へど、五臟六腑の疲るゝほどに考がえたる其の考の何事なるやは、深く反省すべき價値あり。

凡そ、思慮なく、豫算なきものは、家を出でて後ちに行先を思ひ付く人の如く、万事即席にして賴母しからず。成功すとも僥倖なり、不成功なりとも經驗とはなるまじ。もし能く初めに於て仔細周密に設計し、而して後ち破るゝとあらば、之れ已むよを得ざるにして寧ろ快ちよし。後學の爲ともなり、後の伏線ともなり、決して無益にはあらざるべし。

古人此の事を戒しめんとて、初夢の說あり。何如なるをか想像し、理想し、豫算設計せるやと質して、扨て其の夜の夢を調べよとは言ふなり。矢は當らざる前に、當るものに手應えあり。吉か、凶か、其の大方は豫かじめ察せらるゝ所ろなきにあらず。玆に於てか、夢の辻占の說あり。

家庭のゆかしさ

有髯男兒

古郷こひしく、家庭ゆかしきは、盆、正月、節句、夏休など云ふそれ〳〵の安息の時にて、心少しく閒なれば直ちに吾が昔しを、幼なき時とを憶ひ起す。これ人の情けなれ。

わけても樂しきは、お正月にてありける。松かざり、志め繩、橙、海老など、譯もなく、埒もなきもの〻樣に思ひ過せし我も、當年の光景今の心に浮びては、惣べて〳〵ゆかしき種とはなる。

餘夜眠りかねて、曉の鐘をかぞへ、雜煮いはひに餅の數を競ひ、追羽根、紙鳶あげに喧嘩せしとすら、今思ひ出せば、獨りほゝえまれて、心俄かに温たかになるなり。

わが幼なき時、父西京に出仕の留守、御代りすとて凜々しく

祉杯つけ、トンボの如き小さき髮を結び、大小を帶き、馬に騰がり、若黨一人つれて回禮せし折、家老の邸の武者窓より二三の女中がかひまみて、可愛らしき若樣よとさゝやきくれしを、若黨より聞き、振返つてイツ〳〵しく悅こびたる八歲の折の記臆は、毎年々頭の一笑話なり。ことしも例の如く憶ひ起して獨り失笑す。

やゝ大きくなりて、餅の數は年の數だけ祝はふべきものとそそのかされ、十歲にして三ヶ日に十づゝ食べたるは、中々に苦しかりしが、六十七十のヂイさんとなりなば、如何にすべきと心配せし吾が顏付も、今ま睹る如し。

斯るいたづら小僧も、年月の立つ仕合せに、例の如く成長し、人なみに夫人も得つ、愛兒も擧げつるに、夫人十年病みて床につくとの多かりしに、一月元旦は是非とも蓐を片付けて、同もに太陽の光を見るとなりしが、此時は、小供等の、「今日はカアちやんの床が無つてうれしい」と言ひ〳〵したる言葉、今は聞かず。其本人も亦居らざれど、此の記臆は、喜愛の切に半ばする記臆なり。

世に無用の用と云ふは、お正月の祝ひのごときものならん。

其時は何の用もなきごとくなれど、一生の記臆、一代の情操に幾何の影響かある。勞働をもて買ひがたし、理窟をもて償のひがたし。たゞ斯る季節の和らぎをもて得べきなり。

西洋人はクリスマスを以て我お正月の如くす。こは宗敎上の意味もありて、一入高尙なるとなれど、今ま我國などにて一般には行なひがたし。お正月には、子供等所々の學校より、出サキより、旅行より必らず家に歸り、吾家庭にて歲越しをして、元旦、父母の前に同もに祝賀申しあぐ。父母の悅こびは更にも言はず、同胞一族の樂しみ如何ん。出入のヂヂイや隣の幼な友達も、お向ふの喧嘩相手も、小學校の仲間も、お針の相弟子も、歌がるたの仲よしも、三日正月、七日正月の間は、たゞ笑つて〳〵祝ふこそゆかしけれ。

或る幼な兒、お正月の來るを、モウ幾ツ寢てト勘定し、だんだんもどかしがり、「お正月は簞笥の中に這入つてゐの〻、早く出して頂戴よ」と言ひけん可愛らしき方々より、孫の成人に指折りて、白髮の增すを知らぬ老人達、今日から十五になつた、男になつたと悅こぶ勇ましき坊チヤン迄で、實にお正月には福の神の來る時と思ひて、心をきなく祝ひ玉へ。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

賀時、恐び音の歌

紫苑山人、去年の暮、愛妻を失ふ。ことし、新正の賀時、よろこびか、悲しみか。人の笑ひざゝめく時ぞ、悲しみある人の尤とも苦しき時なれ。其近詠を寄せらるるを見るに、再たび誦しがたし、左にかゝげて同情の士に見す

年ごとにともにいはひしかゝみもち
　うつるむかしのかけそかなしき。
とこ春の神のみやこは知らねとも
　此世は冬そさひしかりける。
母まさてさひしといひてうなゐ兒の
　こゝろありけにわれを見るかな。
うなゐ兒の時雨ふる日はことさらに
　さひしといひて我により來ぬ。
雨ふれはぬれてますらんおくつきに
　かささゝましとうなゐ兒はいふ。
今さらにひろき家居そこひしかる
　ともにとおもふ人におくれて。

教育

新小學、新塾舍

◉系統問題など云ふものが流行する今日なれば、吾黨の言ふ所は敢て異を立てる樣に聞こえるかは知らぬが、決して異を立てるのではない、當然の事を言ふ積りである。たゞ餘り世間が凝り過ぎて、一方にのみ熱して御座るから、當然の事を言ふものが反つて可笑しく聞えるのである。

◉即はち、吾黨は曩にも言ふた如く、系統問題などに餘り熱心せぬ方で、むしろ、コンナ事を八釜しく言ふのが當代の弊であると認めて居る。吾黨の望む所ろは、系統を調のえ、畫一を律する所ろではない、更に一層、不系統、不畫一のものを多く造りたいのである。依て、年頭第一の希望として茲に告白する所のものは、今の小學校の樣でない小學校、今の塾舍のやうでない塾舍、即はち丸るで學校らしくない學校と、塾舍らしくない新塾舍とが大いに勃興するやうにさせたいと

云ふの一事である。

●文部省は、學齢兒童を必らず小學校に入れよと命令して居るが、吾黨の考へでは、小學校に送らずとも教育の出來る樣な家庭に於ては、成るべく其の家庭に於て小學教育を施こす樣にさせたいと思つて居る。之は、教育ある父母の家庭に於ては、爲し易いとで、又、爲ねば成らぬとである。然るに、教育と云へば、是非、小學校に送らねば成らぬものの樣に思つて居るものゝ計りで、實に不審千万の事である。西洋の眞似をするとが好ならば、西洋の實例を見ても分る。教育ある人や、資力ある人が、決して普通の小學校に其の愛兒を托さぬと言つて居るものが多くある。之は眞に左もあるべきとで、小學校が盛んになつて、誰の子も〳〵一處に通ふやうになれば、勢ひ斯る希望の起るのは尤もである。夫故、父兄が親から世話の出來ぬときは、家庭教師を雇つて、吾が家の兒の小學教育を托する。吾家だけで維持するとが出來ねば、二三軒で申し合せて、信用すべき教師を聘し、之に全く委托する。斯くすれば、教化薰育の行はるると實に期して待つべしで、中々七八百人一處に雜魚の集まるやうにして入れてある學校などの及ぶ所でない。世話の屆くとは、無論である。

●然るに、文部省なり、其意旨を承くる地方の當局者などが、兎角、かゝる仕組を嫌ひ、折角、其志しで、設けかゝるものをも反つて壓へ付けよふとする傾の見ゆるのは、如何なると乎。教育の道を知らざるも亦た太甚しいとである。今や、小學校は足らず、小學教師は足らず、學齢兒童をして十分に就學せしむる設備は、何處に於ても不足である。少しでも其の補充となるものがあれば、感謝せねばならぬ筈であるのに、丸るで反對で、斯る特志な、斯る高尚な、斯る完全に近い理想を以て教育せんとする人あるを反つて妨害せんとするなどは、何たるとであらふ乎。殆ど、其意を了解するとが出來ぬ。

●よつて吾黨は、吾が家庭に於て其子の小學教育の出來る位なものをわざ〳〵小學校に送るなどは、其の親が教育に不信切、不熱心な證據として責めんとするもので、今の普通の論客の如く、一も二もなく必らず小學校に送れなどと勸告するものではない。かゝる人々は、親から教えるなり、又、特別に教師を聘するなりして、今の小學校に餘裕をつけ、而して他の貧民や、不自由不如意な樣な人の子を成べく多く其小學校

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

に這入らせるのが善いとである。

●而して、斯る家庭教師としては、女學校卒業生が太はだ適當なので、何卒、此の一方面に今の女學生の多くを聘用せしむるやうに爲たいとである。

●それで、斯る家庭的教育を第一とし、此の家庭的教育と、今の學校塾舎との仲間に、更に新らしき一種の塾舎を設けたいと思つて居る。即はち、家庭的塾舎と言はふか、又は塾舎的學園とでも云ふべきものである。

●其の仕組は、一人の主婦、又は教育熱心の夫婦が中心となつて、五人十人位の人の子を預かり、家庭のやうな塾舎をつくり、此處に大躰の教育を施こして、學科は他の學校に通學せしめるのである。之は、極めて有力なる仕組で、多分、家庭を出でたる人の子を預かる塾舎に於ては、遂に此の理想的制度に依らねば、十分の成効はあるまいと思はれる。夫故、百人二百人の學生を一處に預かる塾舎にしても、矢張り此模型に則つて、之を五人十人づゝの小家屋に分ち、所謂る別舍組織にして、初めて其結果が得られるであらうと信ずる。

●以上申したる二ッの事は、學校に於ても、塾舎に於ても

同もに一層家庭に模倣せしむるの希望で、即はち家庭は是れ人を教育するに最善最有力の場所であるから、成るべき丈け其の摸範に接近せしめると云ふ主意である。故に、小學校制度が自然、器械的、他人行儀的に流れんとする時弊に對して、之を家庭に引もどし、塾舎が大抵冷淡に粗暴に、旅人合宿的に流れんとする通弊に對して、之を家庭に倣はしむるのである。

●願くば、斯る異様な、然し乍ら實は當然なる仕組が、大に勃興して、今の系統的、畫一的、千篇一律的、トコロテン突出し的の教育制度から違つた、異采あり、特色あるものが、盛んに流行するやうにさせたいと熱望して居るのである。

●凡そ、物の一盛一衰は常で、尤も盛んなる時が即はち衰への初めである。今の學校制度は、もと西洋の眞似で、多年の盡力から組織が調のひ、署ぼ畫一的、軍隊的となつた。斯く調のつて來ると即はち器械的になり、弊害が出て、其の精神を失ふものである。最早や、新生命が、新形躰を取つてソロ〱顯はれねばならぬ時機である。識見ある人は、既に之を看破して居られるとであらうと信ずる。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

講義

簡易 女子特異生理

青柳有美講

生めよ殖えよ地に滿てよ……………舊約聖書創世紀

妻を娶りて多くの子孫をもうけたる人は徒らに座して人口論を喃々する獨身者流に優ること千万なり……………ゴールドスミス

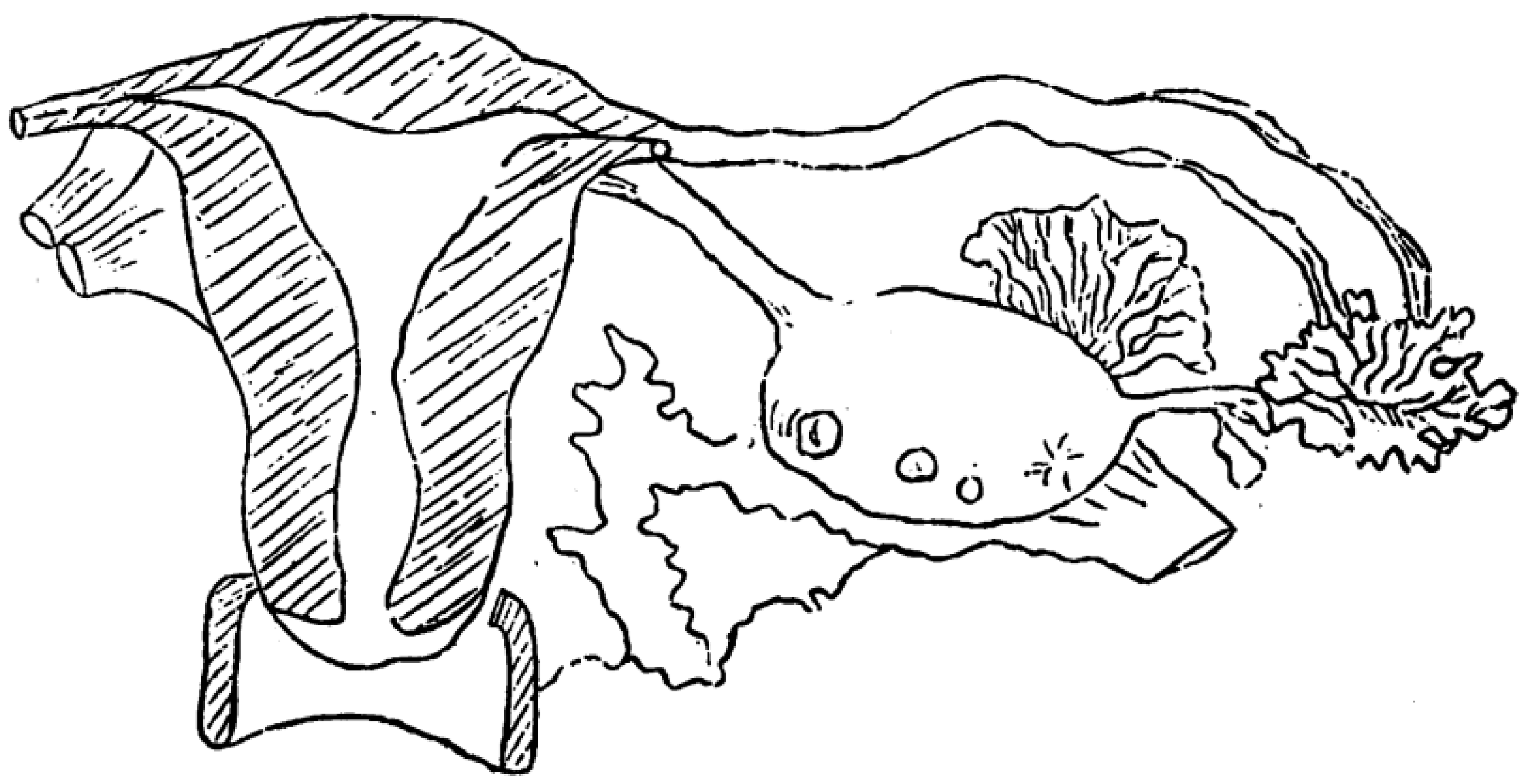
○女子特異器關の解剖畧説

女子の特異生理を研究するには、先づ女子に特異なる機關の解剖造構を大畧學ばればなりませぬ。さて、其特異機關即ち男子には全くなくして婦人にのみある機關の重なるものは、其數四ッで（第一）卵巢（第二）フアロープ氏管一名喇叭管（第三）子宮（第四）膣であります。

(第一)卵巢　卵巢は骨盤（一名尻盤）乃ち腰の骨の凹んだところに、左右各一ッづゝあるもので、長サ大凡一吋半、幅大凡一吋の四分の三、厚サ大凡半吋位である。その周圍には、かの靭帶と稱せらるゝものがつき纏ふて、子宮に連結せられ居ることは、圖に於て見らるゝ通りである。世の石婦といふは、大抵この卵巢のない方だ。

その外部は、概れ柔軟なる纖維組織で、うちには極微細なるグラーフ氏胞といふものを澤山に含有して居ります。而して其グラーフ氏胞の中には、即ち卵といふものが包まれて居るのだ。さて又卵の大サは大抵、百二十分の一吋位で球形をなし

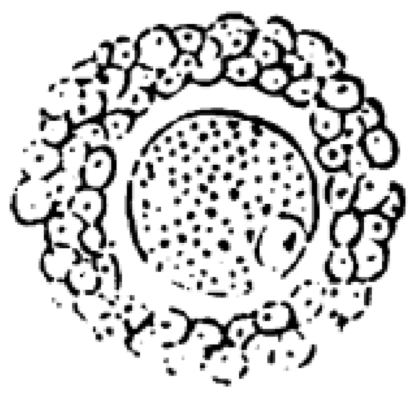
第一圖



て居る。中は蛋白質より出來て、胚胎と稱せらるゝ一種の核を持て居ることは、第二圖の示す如くだ。この卵は乃ち後日子供の種になるのだから、非常に大切なものである。

さて、この大切なる卵を包んで居る前申したグラーフ氏胞は、其初め卵巢の中央部に發生するものだが、漸々生熟するに隨ひ、表面の方に浮び出で、遂には其表面を破りて、外に飛び出るものだ。勿論このグラーフ氏胞は、幼年の時代から、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY



第二圖

卵巣内に出來るものではあるが、春氣發動期（後に詳なり）前のものは、その發育が大變不完全で、形も極小さく、色も蒼白色で、懐姙する丈けの力が備つて居ない。それで、完全に成熟する前に、何處に消えうせるとなく何處かに、雪の日光にあたツた時の様に消えうせてしまふものだ。然るに、春氣發動期の後からは、その胞が遂に破裂するまで成熟するもので、卵巣内に發生する數の如きも前よりは非常に夥く、又形ちも大變に大きくもなりて居る。

（第二）フワロープ氏管一名喇叭管　フワロープ氏管は、其長サ大凡四吋位のもので、その一端は子宮の底部に開口して、他の一端は卵巣の上部に止りて居る。且つは、左右各一ツつゝあるもので、その子宮に接し居る方の端は、非常に細く、その中に髮毛の通ることさへ、六ケしいほどだが、他の端は隨分太くなりて、中さば先つ喇叭の形狀なのだ。是が一名喇叭管と稱せらるゝ所因である。さて、この管の内部は顫毛のある細胞から出來て居る粘膜といふチバ〳〵した薄い膜で覆れて居る。

（第三）子宮　子宮は其形狀恰も西洋種の梨子の如くで、（懐姙中は例外として）其長サは大抵三吋位、幅は、上部乃ち底になつて居る邊が三吋位もあらふ。然し下部乃ち唇の様になつてる邊は僅に半吋位しかない。尤も、中央は一吋位もある。内部は矢張り喇叭管と同様で顫毛ある粘膜に覆はれて居る。而して其粘膜の上の層は、結締組織と無紋筋とが錯叉して出來て居るものだ。よりて、大丈夫鐵の鞋である。これは中に子供を宿すための用意なので、何時もながら、神様の妙工には驚くより外にない。子宮内部の空隙ある場所乃ち穴になつて居るところは、姙娠中を除くの外は極々小さいもので、普通は左右の粘膜壁が、互に相接して居るほどで、丁度封じ袋の様になツておる。その空隙の上部に喇叭管の開口してゐることは、前申した通で、その下部の唇の様になつて割れて居る所は、膣に通じて居る。

（第四）膣　膣は其長サ大凡五六吋のもので、子宮口より斜に下行し、遂には外部にその口を開いて居る。其形狀は圓筒狀で、口は狹いが、中は中々にゆつくりして居る。内部は矢張り粘膜層に覆はれて、通常は横に皺がよつて居る。而してその上はまた二層の筋膜で覆はれて居るのだ。

○卵の脫離

さて前にも一寸述べた通りで、卵巣の中央部に出來る彼のグラーフ氏胞は、成熟を重ぬると共に、漸々卵巣の上部にあがり來り、これと共にそのうちにある蛋白質の液躰が漸々増して、胞を覆て居る膜も、次第〳〵に薄くなり、遂には破れるので、中から前の蛋白液が卵と共に飛び出すものだ。すると、それなる卵巣の上に、漏斗の様に蓋になつて居る喇叭管は外へはやらずと、直にその脫離せる卵を吸收し捕て、恰もかの氣管の顫毛が塵埃を送り返す様に、喇叭管内層の粘膜にある顫毛の作用で、この卵を子宮まで送り出してやる。人間に於てこのグラーフ氏胞は、一ケ月に一ツ或は二ツ位づゝ破るゝもので、この破るゝ際に下等動物なれば、發熱するものだが、人間にはかゝることがなくして、所謂月經なるものが起る。

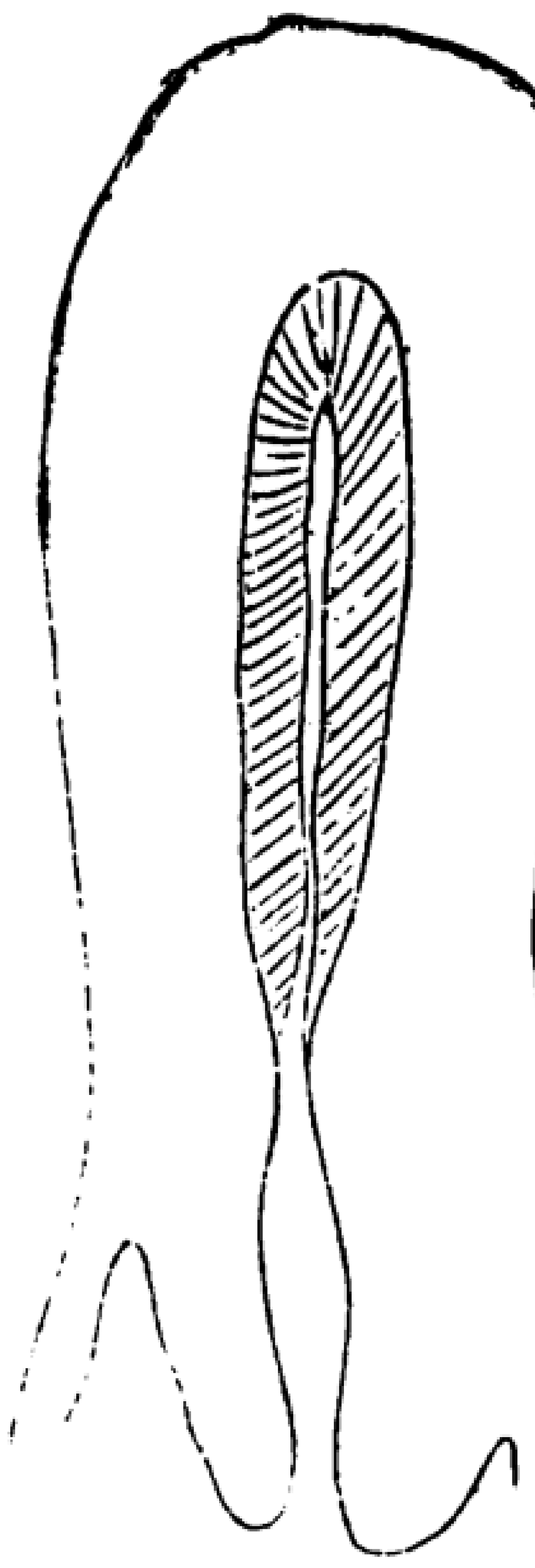
○月經及春氣發動期

月經はグラーフ氏胞の破るゝ際、卵巣が充血するので、子宮も之が影響を蒙て、充血を起し、其粘膜が破れて血を流すから起るのだといふ學者もあるが、之は誤りである。然し外科手術で、卵巣を二ツとも除却してしまへば、月經は起るものでないから、月經と卵の脫離と離すべからざる關係のあることは確かである。今

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

並に月經の起因に關する確實なる學者の說を擧ぐれば、かのグラーフ氏胞が、段々成熟して將に破裂せんとする頃になれば、子宮內層の粘膜も漸く生熟して來て、第三圖に於けるが如く、成熟の絕頂に達する。此の如く成熟せる粘膜は、懷姙の場合には大變必要なものであるが、然らざる場合には全く無用のものじやによりて、かのグラーフ氏胞が破れると間もなく、また破れて血液を出すものだ。されば經水とは、この粘膜と粘液と血液の三種より出來て居るもので、その色は黑ろ赤く、指を切つた時出る血と、略ぼ似て居るが決してその中に塊のあるものではない。もしあらば病的だによりて、直ぐ婦人科醫の診察をうけねばならぬ。さ

第三圖



第四圖

て前の如く粘膜の破れて經水の出た後の子宮は、一旦第四圖の如き有樣になるが、又漸々粘膜が成熟してきて一週間もたてば、第五圖の如くになりて又々充血し、遂に又第三圖の如く成熟すれば、再び破れる次第は前と同じだ。此の如くにして、月經の顯はるゝのは、二十八日乃ち四週間に一度づゝで、これが正しく來くる婦

(二三)

第五圖

人であると、時間までも、常に同じなそうだが、或る婦人になると三週に一度づゝも見る。然し三週に一度までは健康體にもあることだから、心配にも及ばんが、これより早く見る樣では、病的だ。よりて、醫師の診察を乞はねばならぬ。而して月經は大抵三日乃至六日位續くものだ。之が月々不順であつたり、その經水の色が餘り黑かつたり、或は靑かつたり、或は白かつたり、又いつもより餘計に出たり、不足に出たりしたら、これまた病的なので、直に醫師に見せねばならぬ。普通の人は、月經のある時でも、別に苦痛を感ぜぬものだが、人によりては、腰の邊に痛みを感じたり、疲勞の感を起したりするものだ。この月經の間が非常に婦人に取ては大切なもので、之を疎畧に致すと肺病に罹つたり、生涯子の出來ない石婦になつたりする。其他御婦人方の病氣衰弱等は、大抵これから起るものだ。よりて、少しでも病的の樣に思はれたら、つまらぬ遠慮はよして、直に醫師に見せるがよい。さて、この經水のある間は先づ激しい勞働をしたり、遠路を步いたり、馬車人力などに乘つてはいけぬ。又氷水其他冷たいものを飮食することや、酸きものを用ふることをも止ればならぬ。又腰部を冷したり冷水に足を浸したり、海水浴をすることなども愼まねばならぬ。加之ならず、湯に這入ることも大毒だ。近頃野州足利の地方で少し取調べて見たが、同地の機業家本島善作なる人の話によると、仁田山地方の工女が身體の不健全なのは、大低この月經中に入浴するからだとのとであつた。湯のことはあまり氣が付かないで居る人々もあるが、先

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

分注意をしてほしいものだ。

さて、生殖器が成熟しはじめて、月經の顯はれ來る時期は、女子の春季發動期さ稱せられて何さなく温い心が起きて殿御戀しくなるものだ。この時期には、男女さもたゞ生殖器が發達するばかりでなく、人間の躰軀は一躰によく延びるもので、又智識の如きも、この時期に於て著しき發達進歩を遂ぐるものだ。されば、この際怠惰の習慣などを作れば、將來再び償ふべからざる無類の馬鹿ものさなツてしまふ。古來の學者など申ものは、大抵この春氣發動期に勤勉して錬りあげたものだそうで、露國近世化學の泰斗メンデレェッフなどは著しい例だ。

却說、月經の始めて顯れるは、何歳頃なりやさ申せば、之は、其土地の氣候如何により、隨分差異がある。乃ち赤道に近き地方の婦女子程、早く之を見るもので、寒國程遲い。されば印度などでは、十歳或は十一歳位にして、はや經水を見る由だが、登國の如き寒國では二十歳甚しきに至れば三十歳位でなければ、經水を見ない。今明治三十年二月の統計集誌にある、醫學士山田謙治なる人の金澤及北陸に於て調査せる所によるさ、日本婦人が月經の初經は、最十四歳及十五歳に多く、十三歳十六歳はその次で、十一歳以前及十九歳以後に、之を見る人は先づ〳〵破格であるそうだ。さて又月經の初めて顯はれる時期は、三月より五月に至る春季に最も多くて、十二月より二月に至る冬季がその次で、夏季秋季に經水を初めて見る人はこれも又尠ない。而して又貴族富豪家などの娘御は勞働する人などよりはどうしても早く、躰格の矮小で孱弱な姫たちは、强壯にして長大な娘樣方よりどうしても遲いさのことだ。

斯く月經が現はれるさ、一人前の婦人になつて、その生殖器も發達し、姙娠することが出來るさいふ證しではあるが、直に結婚することは、よろしくない。大抵月經を見てから十年も經ツて結婚してほしいものだ。然し滿二十歳にもなれば先づ人の妻になツても、大した害はあるまい。もしどうしても早婚せればならぬさならば、止むないことだから滿十七歳、數へ年の十九位までは勘辨しても、先づいや〳〵ながらよろしからふ。それより下では、どんなことがあつても、結婚させてはならぬ、決してなりませぬ。もう十九より下で嫁入婿取などすることがあツては、それこそ由々しき大事で、當人の身は素より、生み出す子供の身躰にも非常な害を及ぼし、碌な子は生れない。その上、産の時に、非常に苦しく、子供も無理に壓し出されるので所々に傷を受くることなどがある。又三十歳以上になりてから始めて人の妻さなるさ、これも多くは難産だ。故に晩婚も弊害である。而して、子を孕むさ、月經は、不思議にも止つて經水を見ない樣になる、これは子宮の口に軟らかい膜が出來て、其入口を塞ぐからだ。されば、御婦人方が結婚せられた後は、必ず帳面を一つ作くツて、毎月經水を見る毎に、その始ツた日さ終ツた日さを記入する樣にしてもらいたい。なほこのことは後から姙娠暦の所で詳く述べる積である。若し又姙娠中月經がある樣では、これが流産の基さなるゆゑ、早速婦人科醫に診察を乞はればならぬものだ。又乳を飲まして居る間は、月經を見るものでない。もし、あれば、乃ちその婦人の勢力が大に衰へたるの徵で、乳の質が大變に惡くなツて居る。よりて乳母を雇ふ時なぞには充分注意して、月經のないものを擇ぶやうにせねばならぬ。次にこの月經なるものは、生涯あるものでなく、日本婦人は、大抵四十六歳乃至五十歳位にもなればやむ。然し、中には三十六歳頃よりやむものもあれば、五十五歳頃まで續くものもある。だが、最も多いのは四十八歳から五十歳までの間に止むので、この時期を月經閉止期さ稱し、これから後は姙娠するものでない。

○受　胎

受胎は如何なる工合で起るものか、其他又胎兒の發達して分娩せらるゝまでに至る經過などに就いても、色々述べたいが、隨分複雜でもあり、且つ多くの猥褻な

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ども入用で、些かの紙數では出來兼ることだ。よりて、極簡畧に述れば、かの卵が卵巣から脫離して、喇叭管に吸收せられ、その內層にある顫毛の作用で、子宮まで送り出さるゝには、大抵人間にありては八日乃至十日を要するものである。而して卵の脫離は丁度月經の始る頃であることは、前申した通りだから、卵が子宮に到着するのは、月經の終ッてから二三日の後である。して、この卵は子宮內に十二三日位も滯在して居る。受胎は乃ちこの間に起る。されば、月經のやんでから十四日乃至十六日の間が受精の時期で、これから後には先づ受胎する氣づかひはない。それで愈々卵が子宮に滯在中受精せなくば、大抵月經の終ッてから十五六日目の頃に至ると、薄き水の樣なものと微痛とを先きにたてゝ、躰外に排却せられてしまふ。然し、受精をするば、十二三ケ日頃には、その胎兒が豆粒位の大サのものになり、卅日目には耳鼻を生じ、漸く月の進むと共に、諸部分が發達してゆく。

○姙娠の徵候

姙娠した時には、種々の徵候があるものだが、(第一)は月經のやむことだ。勿論病氣のせいなどでやむこともあるが、此迄每月順當にあッたものが、二ケ月も三ケ月もパッタリとなければ、全く姙娠に相違ない。

(第二)は惡阻 と申もので、姙娠後二三週間もたゝぬうちに、何となく吐く氣味がついてきて胸の心地惡く、時としては、水のやうなものをさへ嘔くこともある。又顏色も何となく蒼めて、動悸がしたり、齒痛みを感じたり、凡そ氣が鬱して、幽々面白からぬ心地になるものだ。又人によりては、譯もないに泣き出したくなッたり、線香や灰の樣な食へないものを食ひたいといふ樣な氣を起したり、又凡て酸いものを欲する樣になる。これは一ケ月目位から長くも四ケ月目位もつゞければ、全くやむ。仲には姙娠中終りまで續く人もあるが、其代り全く初めからない人もあ

(第三)は乳房 の變化で、大凡姙娠後二ケ月も經過すれば、胸に靑線が明に顯はれ、又初產の人ならば、乳粒の周圍は鳶色の環が顯はれ、從て乳房も痛み出して張るものだ。又數ケ月もたてば、乳粒から乳の如き液汁が出る。之は初產の方には甚だ確かなる徵候で、旣に產をしたことのある御婦人ならば、その鳶色の環は何時でもあるが、姙娠すれば常より大きくなる。

(第四)は兒動 で、姙娠後十八週(大凡四ケ月)から二十週間もたてば起るものだ。初めのうちは、たゞ下腹のピク〳〵するのを感ずる位だが、漸々後になると、烈く感ずる樣になる。流產といふは、大抵兒動きのある前に起るものだから、すでに兒動きがあれば、胎兒萬歲の祝杯をあげてもよろしい。

(第五)は腹部 の追々太くなるとで、姙娠のため太くなりたるものか、或は漸々肥滿せるものか、その相違を知るには、腹部を打ッて見るのが一番早い。もし肥滿の爲ならば、ゴムを押す樣だが、姙娠のためならば、指が何物かに抵抗せらるゝ樣な心地がする。

(第六)は臍の位置 の變ることで、始め一二ケ月の間は、常よりも凹むものだが、二ケ月もたてば今度は逆で、段々上の方に上りてきて、腹の面と同じ位になる。

(第七)は風貌 の變化で、姙娠後一二ケ月の間は、全躰がやゝ瘠せて、殊に顏と鼻の邊が著く肉がおちてくる。然し其から又段々と太くなりて來て、昔に返るものだ。

(第八)は利尿 のとで、前にも、一寸申した通り、子宮はゴムのピー〳〵の樣なものじやによりて、中にある兒が大きくなると共に、子宮も漸々膨脹して大きくなッてくる。されば、自然とその前にある膀胱を壓して、之に㵾衝を起させる樣になる。それがため數々便所に行きたい氣味を生ずるものだ。然し行けば正可尿が出るでもない。これも姙娠の一つの徵候である。

其他姙娠すれば、皮膚に斑點を生ずる等のこともある。また姙婦は大變眠氣(ねむけ)を催すものだから、一日に二度位も卅分か一時間程づゝ、假睡するがよろしい。

先づ是等の種々なる徵候をよせ集めて考へたら、姙娠せしか否やは容易に定むることが出來る。之を要するに姙娠も出産も決して病的のものではない。乃ち生理的のもので、子供が胎内から出るのと大便の出るのや何かとは、少も變はッたことがない。世間に大便をするために氣張ッたからとて苦む人もない通り、もし平常殊に姙娠中の衛生さへ誤らなくば、出産に苦む苦などは毛頭あるものでない。現に亞弗利加の婦人なぞは、行列を作て男女打群れて戸外に運動して居る際などに、急に産氣がつき、チョッと行列を離れて草藪の影にかくれて、何の苦もなく分娩して、その赤兒を泉の水に洗ひ淨めて、再び抱きながら行列に加はる位ださうだ。又下等動物なぞを見るに犬猫が難産をしたといふためしも餘りきかない。されば、難産といふとの起るは、人間が廻りもせぬ智慧を廻して衛生に害ある衣服を拵へたり、或は食物を食ふたり、また天賦の神聖なる情慾を濫用するからだ。さる有名なる醫者の說によれば、難産は大概姙娠中の交接から起るとのことで、これさへ愼めば日本婦人の如く衛生上大害なき衣服を着し居る人種には、あまり難産のあるものではなからふ。

○脹滿と姙娠との區別

脹滿と姙娠とを區別する二三の法を擧ぐると、(第一)脹滿の時の腹部の大サには、時により日により大小の變更あり、大くなッたり、小さくなッたりするが、姙娠の際ならば、決して腹部の大サに變動あるものでなく、たゞ大くなるのみだ。(第二)脹滿の際指を以て腹部を押せば、何だか腹の中に風でもあるやうな氣味のするものだが、姙娠の際なれば、之を押すと肉の塊の樣なものがあつて、内部から抵抗でもする樣に感ぜられる。(第三)脹滿の際に腹部を打てば、大鼓か襖でも打つ時の樣な音がするが、姙娠の際には、テーブルでも打つときの樣な音がする。

○姙娠暦

馬は受胎してから分娩まで、大凡一年程もかゝり、駱駝は大凡四百日位で濟むが、人間になると、懷胎より分娩まで、四十週間(二百八十日)乃ち大陰暦で云へば十ヶ月だが、大陽暦では九ヶ月と七日になる。然し、これは受胎の日より算ふるのではなく、最後の月經の終ッた日から起算したものだ。これが前(さき)に、結婚した御婦人方は、必ず一つの帳面を拵へて、之に毎月々經の終ッた日を記入して置きなさいと勸めた所以だ。されば出産の日は、最後の月經の終ッた日より算へて、二百八十日目にあたる日だことを略々豫知することが出來る。なほ又乳を哺まして居る間は、前にも申した通り、月經を見ないものだから、月經の止んだ時から、出産日を起算する譯(わけ)に行かぬ。よりて止むなく兒動を感じた日から算へるものだ。

元來兒動きなるものは、大低受胎後百二十五日にして起るものだから、その兒動きの始めてあッた日に、百五十六日を加へたるものが、乃ち出産の日にあたる。

《完》

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女禮、武藝、及勞働

◉去年、躰育問題を論じたる時に、今の女學に於て有効なる躰育は、女禮、武藝、勞働の三者であると申した。然るに、之を異様に感じて、女禮と武藝とがどふして調和する乎、勞働と女禮とが、どふして一時に行なへる乎などと質問せらる人もあつた。

◉之は皆な、物の末に就て着眼せらるゝからの疑ひで、宗派爭そひや、政黨爭ひの人々が、末派に於て如何にしても調和しがたき衝突を見て、其の開祖、首領の甘然一致せる所ある妙旨を窺がはぬと同様の事である。

◉女禮にせよ、武藝にせよ、動もすると、只だ形式にのみ流れ易きものである。然し、禮は只だ優柔を主旨とするでなく、武は只だ殺伐を目的とするのでは決して無い。禮は、脈の鼓動、息の出入、足の進退に應じて、自然なる態度を調のえ、心身一致の妙味に練熟して、吾が躰を心の家來とし、我心を躰の主人とし、障りなく、滯りなく、無理なく、飾りなき自づからの天眞に安堵せしめて、心動かず、目まぢろがぬ美妙の靈躰に合一せしむる工夫である。その修業の爲に、一歩一息、もしくは目八分、坐作進退、屈伸周旋等の多くの式を行ふと雖ども、コハたゞ武藝に於ける型と同様にて、たゞ其精神を得さする工夫の方便である。左れば、禮の極意には、禮はないので、況んや、禮の式はないのである。もし豁然大悟した人の自づからなる態度を見れば、其姿は自づから美妙にして、即はち禮に適つて居るものである。禮儀三百、威儀三千、男禮女禮各々百ヶ條などゝ言つてあつても、其元は、誰が器機的に定めたと云ふのではない、只だ道を得たる人の美妙なる仕こなしを手本にとつて、其の模型としたのである。

◉扨て、禮をかゝるものと覺つて見れば、其の武道と一致する所ろが直ちに分明になるであらふ。否な、夫れドコロではない、禮家に於ては、弓馬射御の道も亦た其の敎の一つに入れてあつて、即はち武道は禮家の掌どる所ろと爲つて居るのである。然るに、今の禮なるものが、たゞ形に拘泥して、立

二七
Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

ち坐はりの末技にのみ流れたが爲に、反つて其の本源を忘れ、今では、禮家自身が武道と一致することを疑ふやうになつて來た、眞とに淺ましいヿである。

◉武藝に於ても、武道を理想とした藝でなければ、其の修業が正鵠を失し、遂に有害なる結果を來すものである。叩く、打つ、擲ぐるを主旨とするは、武藝に於ける邪道で、眞の武道の大禁物である。昔古の時の勝負は、矢の當りを見るやうなもので、心の修業の出來榮をタメスだけのものである。いよ〳〵實地に臨んでは、勝負などと云ふヿを念頭に置ては決してならぬ、況んや、人を撃つ叩くなどと云ふヿを主旨としてはならぬのである。コヽの極意をよく辨まへたる師匠に學ばざれば、武藝が自から邪道に入る。師を撰ぶヿの必要は、何學科に於ても同樣であるが、特にかゝる勝負事の先生に於ては、取分け大切である。

◉右樣に述べて見ると、女禮と武藝との調和が略ぼ分るヿであらふが、此等がどふして躰育になるか、ことに女禮のやうな靜かなものが、どふして躰育になる乎と疑問する人があらふ。其人は先づ今の所謂ゆる躰育なるものに於ても、其の理想が極めて墮落せるヿに氣着き、躰育とはたゞ躰操のヿではない、身躰、肉躰計りの敎育ではない、之から及ぼして心を敎へるので、即はち、身躰から施こす完然敎育を主旨とせねば成らぬと云ふヿを考へられたいので、ソノ事は去年の躰育論（女學雜誌第四百九十七號）に於て委細に述べた通りである。故に、其の大目的から云へば、前に申した如き女禮や武藝が即はち躰育となると云ふヿは直ちに分るヿであるが、倘又、かゝる高尙な目的からのみ言はずとも、此の二つが躰育になると云ふヿは容易に分る筈である。

◉何故と言ふに、先づ武藝が、躰育になると云ふヿは解釋も要らぬので、女禮の靜かなやうなものが、ドウシテ、躰の運動になるかと言ふに、コヽが即はち眞との女禮と、形式丈の女禮との尤とも明白に岐れる所である。もし精神を凝め、其主旨を重んじて、禮を行ふときは、あの靜かに見ゆる優々たる立居振舞が實に千万斤の力で、古人の所謂ゆる靜中の動、實に非常に力の入るものである。少し骨を折つてすれば、汗ビッショリになるほどの心持で、中々運動になるか、ならぬかなどの問題ではない。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◉終りに、勞働が躰育であるとは、たゞに運動によるのみでなく、其の主旨が立派で、其實益が健全で、其結果が有益で、其感化習慣が善良であるから、躰育中の第一等の躰育となるのである。スペンサーも言はれた如く、訓練と云ふものは、實地の實益となるものと一處に行はれる筈で、實用を離れてたゞ訓練の目的斗りで行はねば成らぬなどと云ふは、不適當の訓練である。勞働の如きは、然らず、眞とに躰育にもなり、實益もある、又いつでも、いつ迄でも行ふとの出來る躰育である。而して、勞働をする身のこなしと、女禮とが一致せぬなどといふのは、禮にウソがあるか、また其の技が進まぬからである。禮に達した上品な手を以て、澤庵梅干を扱かふのが即はち理想的の女禮、理想的の勞働である。

◉吾黨の意見では、今の女學に於ける躰育の最とも善きものは、此の三つで、而して成るべく三つを同時に一致させて行ないたいものと考へて居る。躰操、ロンテニスの類は、成程文明的には相違ないが、今の我國に於ては、迚も盛んに行なはれず、又つゞいて行はれぬものと見て居る。

亞米利加だより

米國通信（第三回）

櫻井鷗村

◎加州二大學の女學生（上）

カリフォルニアに二大學あり。一をバークレーに在る州立カリフォルニア大學となし、他をパロ、アルトに在る、リランド、スタンフォルド、ジユニオル大學となす。共に良大學の名ありて、男女學生の來り學ぶもの甚だ多し。今爰に、主として此等在學の女學生に就きて聊か說かんとす。

○カリフォルニア州立大學

(University of California.)

同大學は、州政府の管轄に屬し、勿論公立なるを以て授業料を徵收する事なし。科學、農學、文學、商業、社會學、工學、採擴學、土木學、化學等の諸分科は、バークレー本校內に在り、而して、美術、法律、醫學、齒科、製藥、獸醫の分科はサンフランシスコ市街に散在し、また有名なるリック天文臺も、ハミルトン山上に在りて、此大學に屬す。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

左に同大學の報告に基き千九百九十九年上半期より過去五學年間、同大學に籍を置きたる學生數の比較を示さん。

	諸分科合計學生在籍數		男子百人に對する女子
千八百九十四年 千八百九十五年	一千七百八十一人	男一千三百〇一人 女四百八十人	三十六人、九弱
千八百九十五年 千八百九十六年	二千〇四十七人	男一千四百〇三人 女六百四十四人	四十五人、九強
千八百九十六年 千八百九十七年	二千二百十二人	男一千四百七十一人 女七百四十一人	五十人、三強
千八百九十七年 千八百九十八年	二千三百九十一人	男一千五百三十一人 女八百六十人	五十六人、二弱
千八百九十八年 千八百九十九年	二千四百三十八人	男一千五百三十人 女九百〇八人	五十九人、三強

以上はバークレー本校、サンフランシスコ諸分校及リック天文臺に在る諸學生の合計數なるが、なほ又本校のみに就き、其學生數を、以上と等しき五學年次に於て比較すれば左の如し。

	バークレー本校諸分科學生在籍數		男子百人に對する女子
千八百九十四年 千八百九十五年	一千一百二十四人	男七百二十五人 女三百二十九人	五十八人、七弱 四十五人、四弱
千八百九十五年 千八百九十六年	一千三百三十六人	男八百十一人 女五百二十五人	六十四人、七強
千八百九十六年 千八百九十七年	一千四百九十八人	男九百〇二人 女五百九十六人	六十六人、強
千八百九十七年 千八百九十八年	一千六百六十五人	男九百六十三人 女七百〇二人	七十六人、強
千八百九十八年 千八百九十九年	一千七百十六人	男九百五十三人 女七百六十三人	八十人、強

以上の二表を通覽するに、女生增加の比率は、男生增加の比率よりも頗る多きを知るべし。また千八百九十八年―九十九年の學年(即ち去學年)間にバークレー本校の諸分科及び諸分校に配したる男女學生數は左の如し。

◉バークレー本校諸分科學生配置表(千八百九十八年―九十九年)

△卒業後研究學生

Doctor of Philosophy (Ph.D.) の候補者	男十一人 女三人	計十四人	
Amaster of Arts (M.A.) の候補者	男四人 女六人	計十人	
Master of Lettrs (M.L.) の候補者	男一人 女九人	計十人	
Master of Science (M.S.) の候補者	男五人 女三人	計八人	
Civil Engineer (C.E.) の候補者	男二人 女〇	計二人	
Bacheler of Arts (A.B.) の候補者	男〇 女二人	計二人	
Bacheler of Letter (B.L,) の候補者	男二人 女〇	計二人	
Bacheler of Science (B.S.) の候補者	男一人 女二人	計三人	
各個專門學科研究中のもの	男七十七人 女六十六人	計百四十三人	
以上通計	男百〇三人 女九十一人	百九十四人	

卒業以前學生(四ヶ學年生及特別科生、制限科生を含む)

文學科	男九十六人 女百二十人	計二百十六人
社會學科	男二百六十四人 女四百八十四人	計七百四十八人
自然科學科	男六十一人 女五十九人	計百二十人
×商業科	男三人 女〇	計三人

×新設科なれば生徒尠し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

農學科	男 十七人	女 四人	計二十一人
工學科	男 百二十七人	女 〇	計百二十七人
採鑛學科	男 百六十九人	女 〇	計百六十九人
土木學科	男 四十人	女 〇	計四十人
以上通計	男 八百五十二人	女 六百七十九人	一千五百三十一人

バークレー本校諸分科在學生(兼修重複數九人を除き)

總計	男 九百五十三人	女 七百六十三人	一千七百十六人

◉諸分校學生(四ヶ學年生及無級生共)配置表(千九百九十八年—九十九年)

天文臺(卒業後研究生)	男 五人	女 〇	計五人
美術學校	男 九十八人	女 百〇八人	計二百〇六人
法律學校	男 百二十九人	女 三人	計百三十二人
醫學部	男 百二十四人	女 二十二人	計百四十六人
醫學部研究科	男 五人	女 一人	計六人
齒科學校	男 百五十二人	女 九人	計百六十一人
製藥學校	男 六十五人	女 三人	計六十八人

獸醫學校	男 五人	女 〇	計五人
以上通計	男 五百八十三人	女 百四十六人	七百二十九人

カリフオルニア大學在籍學生(兼修重複數十六を除き)

總計	男 一千五百三十人	女 九百〇八人	二千四百三十八人

扨て又此大學が千八百九十四年より千八百九十八年まで五ヶ年授與したる學位及人別左の如し。

LLD. (Doctor of Laws)‥(大博士)‥‥	男 一人	女 〇	計一人
Ph. D.……(哲學博士)……	男 七人	女 〇	計七人
M. A.……	男 十五人	女 十人	計二十五人
M. L.……	男 三人	女 十人	計十三人
M. S.……	男 十五人	女 三人	計十八人
以上高等學位者通計	男 四十一人	女 二十三人	六十四人
A. B.……	男 六十五人	女 四十四人	計百〇九人
B. L.……	男 六十六人	女 百二十七人	計百九十三人
Ph. B.……	男 百十七人	女 七十九人	計百九十六人

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

		男	女	計
B. S.	自然科學科	三十一人	二十一人	計五十二人
	農學科	八人	〇人	計八人
	工學科	五十二人	〇人	計五十二人
	土木學部	四十一人	一人	計四十二人
	化學科	二十五人	四人	計二十九人
	採礦學科	二十人	〇人	計二十人
以上バチエラー學位者通計		四百三十五人	二百七十六人	七百十一人
LL. B.(Bachelor of Laws.)		百八十六人	五人	計百九十一人
M.D.(Doctor of Medicine.)		百二十人	十六人	計百三十六人
D. D. S. (Doctor of Dental Science.)(齒科)		百八十一人	十五人	計百九十六人
Ph. G. (Graduate in Pharmacy.)(製藥)		百二十四人	四人	計百二十八人
D. V. S. (Doctor of Veterinary Science.)(獸醫)		七人	〇人	計七人
以上職業學位者通計		六百十八人	四十人	六百五十八人
以上諸學位者總計		一千〇九十四人	三百三十九人	一千四百三十三人

以上の諸統計たるや、以て同大學に於ける男女生の比較數を

示して、米國女子高等教育進歩の一斑を説明せんとするものなり。

冀くは讀者の其繁なるに就て、通覽するの幸を與へんことを。

素より女學校なりと雖も、なほ女子に特別なる教授をなさゞるを、常とする米國の事なれば、まして、共學の大學が、女生の爲に特別の教科を設備するの理なく、男女各〻其擇ぶ處に從つて同一の教授を受く。但女生の多く好む處と男生の多く好む處とに、多少の差異ある事は、以上の表に就きて知るべし。

されどカリフオルニア大學は、躰育科に於て、男女の間に多少の別をなせり。素より躰操丈は男女同時に行ふ事能はざるは當然の理なるが、同等に課する學校はあり。(スタンフオルト大學の如きこれなり。後項を見よ。)同大學の女生に課する躰操は、男女に課する初歩の器械躰操に止りて、柔軟躰操歩行、驅足、綱、啞鈴、棒、球竿、棍棒等なり。一週三回半時間宛之を行ひ、而して男女教師之に任ず。また女醫ありて、常に女生の身躰に注意し、女生にして躰操實習をなさんとするものあれば、女醫先づ其躰格を検査して合格者のみに之を許す。體

實科中には實地躰操の外に、躰育の歴史等の講義なり。此校は公立の故を以て、男生には兵式教練あり。

此大學に學ぶ日本人は、現今男生十名餘あれども、女生は僅に一名なり。名を柳澤ヨ子子といひ、先年文學部を卒業してB.L.の學位を受け、今又更に醫學部に入りて修業中なり。同人は上州の生れにして、父と共に桑港に在り。父は安飯屋の主人なり。

此大學は男女の爲に寄宿舍を設けず。

雜錄

『正月』の觀

山形東根

◎面白き月　一年三百六十五日を區分して、十二月と爲す、中に就て我が社會眼に特に面白く映ずる月あり、一月、四月、八月及び十二月即ち是れ。四月は百花爛熳として千紫萬紅の天地なり、一年の美を鐘むる時なれば、万民其美を賞せんとし、八月は酷暑の最中にして、精神昏迷、亂俗、自殺、犯罪上一種の特色を存す　十二月は一年最後の月なれば、經濟的關係複雜を極め、又他に見るを得ざるの特質あり。仔細に觀來れば各月共に特質を存して、何れも面白きも特に以上の月を以て興味あるものと覺ゆ。

◎一月の容貌　十二月は粗衣粗服を以て動物的に狂奔する時なり、取引頻繁を極め、掛乞の聲四隣に響く、蚤取眼のキヨロ〱として殆んど忙殺せらるゝ砌、何人か心地よく感ずべき、貧者は貧なるが故に苦み、富者は富者なるが故に苦むものなり、十二月の容貌ほど、忌味なるは稀有なるべし。特に大晦日は徹夜の掛乞、東西南北に奔走す。殆んど見られたるものに非ず。然るに僅かに一夜にして天地俄然として變化し去る、昨日の鬼も今日の御慶に來り、芽目度しの聲のみ響き渡るぞ妙なれ、人事界の變化も斯に至つて驚くべし。一月は慥かに人生を延ばすに與りて効あるを覺ゆ。月によりて容貌變化の激甚なるもの、我之を十二月と一月とに於て見る。

◎今年の一月　は子年の一月なれば、新年の新聞紙上鼠に關する記事多く廣告の圖案、附錄の書籍文章又之に因めるもの數多あり、然るにペスト流行より鼠退治の流行となり、本

三三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

年早々一疋五錢の價を以て買はるゝことなれり、從て鼠捕器械の專賣特許も出で、一般に高價となりぬ。猫亦拂底して容易に見出し難きに至れり、子年に鼠の退治流行する何の因果ぞ。

◎世紀の違ひ　今年は西曆千九百年なり、則ち十九世紀最後の年と云ふべし、さるに已に二十世紀となれりとなすあれば、昨年にて十九世紀は終りたるも來年より二十世紀となるにて、本年は其關節年なりと云ふもあり、噫二十世紀來れりと叫びて、新希望を描く傍には、十九世紀最後の年となりぬと云ふもあり、中々に妙なるものあるは可笑し。

◎年賀狀　新聞紙上に謹賀新年の廣告を出すこと流行せしは五六年以前にして、一兩年頃みに減少し、本年の如き特に僅少となりぬ、之に反して端書の年始狀頗る多きを致せり、東京郵便電信局にては昨年より特別取扱ひを開始し、舊臘廿日より二十九日迄受付けたる一部三十通以上の部數は、

書狀七万一千四百六十三　　端書百四十万五千九百六十八

にして總計百四十七万七千四百三十一なりしと云ふ、年賀狀は一人にして五百乃至千通を發するもの珍しからざる當世なれば、年賀狀に要する全國の切手端書費用は、蓋し莫大のものならん。但し特別取扱は年内に年賀狀を預るなれば、ほんの儀式に過ぎざるは素より云ふまでもなし、年賀狀も近々進步し、近來は年々印刷費を省くか爲めに、木版を造りおきて年月日を記入して年々用ゐるもあれば、單に正月元日として年號を入れざる木版も少なからず見えたり。これは印刷費に於て多少の經濟なる譯けなり。

◎年始廻禮　人力車に乘り、又は步行にて玄關に備附けある名刺受取函に名刺を投じ來るは、近來一般の風にて最早珍とするに足らず、御互に濟す途中の年始哉にて、名刺を投ずるが回禮なれば何れも途中に奔走するのみ。九州の某市にては一の帳簿を造り之に記名して回禮に代えたる所あり、追ては之等の輕便法も行はるゝことならん。年賀狀の利益は宿所などの忘れたるもの、不圖之によりて知り得ると、久濶を謝して互に無事を知らしむると等にあり、近親者には餘り用なきとなるが如し

◎門松經濟　消防夫出初めの梯子乘は一時危險なりとて見合せしが一兩年來又々行ふこととなりて、四十基の纏の下に江

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

戸ッ子の勇ましげに集まると漸々舊の如からんとし、五月の鯉幟も一時殆んど廢れしが東京始め各地に近々流行し來れる如く、門松の飾立も年々盛んなるを致せり。此種の盛衰は多く都より生ずるものなれば、都にて俄かに廢頹せる時は、地方は依然舊慣を存するも、漸次都風に化して廢頹するに至るを常とす、而して又流行するや都會最も急進普及して、依然舊體を呈するの狀ある頃は、地方は稍衰頹しつゝあるなり。とは都會遠近に比例して多少の差異あるは云ふまでもなし、此門松の爲めには、年々少なからず木材を倒伐するは、山林經濟上、餘り好ましからざるか如し、蓋し門松には成長よろしく直ぐなるを用ゆ、年々消費するだけ之を供給するとを得ば、經濟上何の差支を生せさるも私かに計算する所によれば、需要に充たすの供給なく、年々木材を減少するの傾向あるか如し、若木を倒伐するに引換へ別に名案ほしき者なれ。

◎●●●●一月と年齡　物日を樂むは幼少の頃にあらずんば、役々として勞働する種類の人士なり、一家を維持して已に子女のあるあらば、物日は却て苦しきものとなる、正月來れりとて樂み狂ふは實に少年時代のみ。蓋し一家組織成れば、費用の數多ある月日は面白からざるもの、而かも何となく少年時代の隋性によりて一月には一月らしく感ずるは、例年均しきが如し。但し磊落にして小兒らしく遊戲を好む質の人ならんには、其樂さ少年時代と大差なからん。

◎●●●●一月の遊戲　は戸内的なると同時に、女子的なり、少年的なり、歌かるた、羽子衝、凧揚、手鞠、トランプ、皆な之れ室内にありて目先と手先きの競爭に非れば、街道に出てゝ狂ひ走るものに非るはなし、餅の如き不消化物を食する時には最も相應はしきもの、配劑面白しと云ふべし。

元旦の感

栄琴女

年は茲に改まりぬ、しかも、ものみなは、更に一年の齡を重りゆくべき時は來ぬ。喜ぶべきか、悲しむべきか、儂は何れに從ふの可しきかをしらず。但自然の作用が、斯くして四時を循環せしめ、年毎に限りなき新生命ある時日を贈り來れるに拘らず、是を受けて如何に用ひ、用ひて如何の果を收めしかの既往に顧みては、あたら清新の今年を、又もや錯誤の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

墨痕に汚す手習草紙として、徒らに費やし去らむを懼るゝのみ。是を以て、今日の旦の初日影、如何に麗らにさし居る山の姿も尋常ならず、妙にたなびく雲のおもて、如何に長閑やかなりとても、僕は身外の萬事萬物更始一新せる面影にのみ、隨喜渇仰すべきにあらず。只々此間に處し、能く此新らしき年と日を迎へ得べき價値ある身なるや否やに思ひ到りては、坐ろ慚愧己れに迫り來るを止むる克はず。さるにても不可思議の思念や、個はそも何に因める所以なるにか。今日といふ今日は聖なる時機のゆゑか、一年を別て輝く初陽の光彩か、勝れて妙えなる山の姿か、雲の色か。斯く謂ふ僕の心に問ふも、心はいふ、われは必しも爾をして、來る年には悔恨と、慚愧を招かしめむとするものにはあらじと。況して無心の時機と太陽と山と雲をや、機かに既往の歳月に徹して、斯くも危懼の思念を刻ましめつるものは、究竟我身の外のものならざるを悟れるのみ、あゝ今日以後の僕が靈よ健やかなれ、僕が躰よ病ひ多からざれ。多病くして齢の少きは、まだも齢の傾きて、躰の健やかなるにはしかず。健やかなる躰を以て、健やかなる可き靈を養ひ、健やかなる靈を以て、健やかなるべき躰を來し、兩々一致の力もて、時々刻々我前に來りつゝある新時日を捉らえ。其日々々を元旦としての、昨日に去歳の悔恨なく、今日に慚愧の心なき歳月をのみ送り迎へたきものにこそ。

法教の歌

悪魔の子

（正月元日悪魔の子しばし世の煩ひを逃れて我が善神に祈り且つは心を平かにして詩美の靈に接せんものと二卷の新詩書と一卷の詩集とを携へて人里遠からぬ天の岩戸にかみ隱れませり而して此間にうけ得たる託宣はこれなり素より古きモーセがシナイ山に受けしが如きものにはあらず）

○癩法華

後の世の
法華經の功徳にて
華の臺にのぼらんも
忍ひ難きは　今生の
疾にくつる　我が身かな
南無　妙法の蓮華經
南無　妙法の蓮華經

蒙古の軍は
日蓮の獅子吼にて
筑紫の泡と消えけんも
療し難きは　今生の
疾にくつる　我が身かな
南無　妙法の蓮華經
南無　妙法の蓮華經

南無妙法蓮華經
太鼓の音は　進めの相圖
太鼓の音は　疫病を拂ふ
力を之れに得てもがなと
勢しげく　ドン〳〵

南無妙法蓮華經
巡りめぐるは　諸國の札所
西國巡禮　三十三ヶ寺
罪業を之れに亡し得んものと
勢しげく　ドン〳〵

穢れたる身は　宿世の因果
せめてもに　胸の想の浮かれな
南無妙法蓮華經　ドン〳〵
南無　妙法の蓮華經

○夫婦とも醉

人のなさけのかくまでも
燃えて我が身を熔かすかや
夫うま酒に醉ひませば
我れは法敎の酒に醉ひ
法士の御手にさすらるゝ
あゝ我れを見よ歌ひ妓よ
傾城の色に溺れて忘るゝ妹子
忘らるゝ身はまた忘れてん夫のこと

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

寄書

樂界微笑錄

○聽樂者と樂評家

巖本露草

尋常の聽樂者のうちにも老功なる賞鑑家尠からずして演技を是非することの屢々なる、所謂る樂評家に相敵すとせば、二者の差別は其の專職なると愛好なるとの資格分別によるか、抑も又別に二者の間をして截然たらしむ可き資格あるか、吾儕は思ふ、尋常普通の所謂る聽樂愛好者は主として娛樂の爲に音樂を聽くものなり、故に其の批評は如何ばかり細緻なるも如何ばかり精緻なるも、要するに評者自身の好惡にのみ依據して、何ぞ自家若しくは其の同好の爲にするの外には又何の爲にする所もなかるべし、否其の善惡は兎も角も其の娛樂外の目的に關しては他人之れに干涉すべき論辯なきなり、彼等が評にして美學樂理の主旨に叶はんか、吾人は其鑑識聽力の高きを稱ふべく　彼等が評にして樂曲樂趣の隱微を發揮する功あらんか、吾人は其音樂的趣味保有の明かなるを稱美すべし、而もこは彼等が吾人に與ふる豫望外の寄與なるのみ、或は偏へに芝居を悅び、鄙俗を悅び、若しくは實感的演奏を悅ばんか、吾人は其の趣味保有の低きを憫むと同時に之れに半日の悅樂をほしいまゝにすることを得る彼等の幸福を羨まずんばあらず、蓋し彼等は娛樂の爲に樂堂に臨む、其の目的を遂し得れば足る、たとへ樂曲を度外にして奏者の技藝を品し、技藝を離れて奏者樂人の美醜を語るも、吾人豈之れに對して容喙論議するの要なしとす、

されど所謂樂評家は之れを一事業專職となせる點より觀れば、單なる娛樂以外に何等かの目的と眼識聽力とを有せざる可らざるに似たり、尠なくとも音樂演奏の批判若しくは獎勵改善など云ふことは樂評が一專職となると共に伴ひ來らざるを得ざるべきものならん（但し吾人が玆に樂評家と稱するは彼の所謂る當今社會の新聞雜誌記者の職務上義務上より樂評の筆を執る新聞雜誌樂評家のことにあらず全く音樂批判を專有となせる人を云ふ、然し今日に於ては未だ日本には斯種の人物なし歐洲各國には存在せり）扨て若しかゝる目的を具ふべきものとすれば、樂評家の批判分析には必然の結果として、何等かの學力又は標準なかる可らず、必しも美學、音樂理などゝ云ふ最も六ヶ敷げなる者を要すとは云はず、せめても樂曲と奏技との關係ぐらいを批判批定するの用意は無かるべからず、夫れ總ての演技は樂曲の（原曲）の再現なり、樂人は樂曲の解釋者たるに外ならず、故に樂曲の樂趣初めより面白からざれば樂人いくら技を轉々美妙に奏するも何人の快かあらん、全く樂人の演奏に上出來不出來の區別あるは一つは技藝の如何にもよれど何に矢張り樂人の氣質に和合せる美妙多趣味の原曲撰定如何にあり、故に樂曲（演奏曲）の如何を認識することは樂評家の研究すべき第一義なるべし、然るに或は批判の標準をこゝに置かずして單に當面の樂的効果のみを目安として自家の感銘と好惡とによりて演者樂人を是非し、毫も原曲の本旨を顧みざる者あり、斯の如きは他の尋常聽樂者の好惡評と何の差異かあらん、之れ誠に吾人の常にうたがう所にして偏に樂評社會不研究の結果なりと言ふも敢て不可なけん。

○過去一年の歐樂會

明治三十二年は歐樂界にとりて一大急速の進步を表したる期にして音樂と社會の關係漸く密々と成れり、言ひ換ふれば過去一年の人心が從來の雅、俗曲に足れりとせず、大に洋樂の妙を知りて轉た稱贊の聲を博したるが故なり、見よ音樂學校は高等師範學校の附屬より別れて一獨立專門校となり、加ふるに獨人アウグスト、ユンケル氏入りて專ら絃樂、獨唱歌に新刷を促し又ノースペリー氏入りて風琴（オルガン）に教をさる等何づれも技能の練磨法一變の色を呈し又新たに音樂の留學生として幸田幸子氏歐洲に派遣の命を受け今や又日本全國の中學には唱歌の一科正課として加へらるゝの計畫、何づれも歐樂界にとりては一段の新進時期と云ふも敢て不可なけん、又音樂會にありても同一。

◎明治三十二年四月廿一日東京音樂學校春季演奏會を同校奏樂堂に催し、畏くも皇后陛下は御臨席御聽聞々閑召され演奏

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎明治三十二年四月廿一日東京音樂學校春季演奏會を同校奏樂堂に催し、畏くも皇后陛下には御臨席御聽聞を聞召され演奏曲には合唱として『長き御影』『國の光』其他橘女史の洋琴獨奏、幸田姉妹の絃樂二部合奏、ユンケル、コイベル兩氏の絃琴、洋琴の合奏等ありて、後又翌日是と同種の演奏會を今度は普通聽樂者に聞かする爲開會せり。

◎明治三十二年三月五日音樂學校に於て女子獨立學校慈善音樂會執行。

◎明治三十二年五月七日音樂學校に於て同聲會の春季演奏會を開演し合唱には『古都』『野薔薇』『薩摩潟』尙ほ加ふるに幸田幸、山縣菊のヴァイオリン、ピアノ合奏、瀧氏の獨奏、ペリー妹姉及び幸田延氏の三樂器合奏等ありて中々盛大なりき。

◎同年五月十二日本鄕中央會堂に於て牛込教會慈善音樂會開會。

◎同年十一月廿五日音樂學校に於て音樂學校秋季演奏會を開き曲には賴母木こま子の絃樂獨奏、瀧氏の洋琴獨奏、ユンケル、コイベル、幸田延子のバイオリン、ピアノ、ヴイオラ合奏、歌には「天浮橋」「日の出島」「秋の別」「夕映」「高津宮」等ありたり、此の演奏會も春季と同じく前后二日間にて二回の同演奏會なりき。

◎同年十二月二日御茶の水大成殿に於て日本音樂會の秋季演奏會を開く曲目は前月音樂學校の秋季演奏會と同く、只だこれに陸軍々樂學校の吹奏樂を加味せしのみにて他は同演なりき。

◎其他毎月一回明治音樂會の演奏會ありて其內十二月九日の同演奏は歷史的各國古今の比較音樂演奏會にて樂曲の說明書などを新刷して聽者の參考に供するなど中々勉め勵みし所、之れ又た大に近來の好演奏會なりき。是等以上陳述したる所を見ても明かに過去一年の樂界進步發達の緖を知るにたらん。

《次號には『國樂標準』『劇場の音樂』二稿續揭》

新刊書

○修養錄

松村介石氏著。警醒社、發兌。

松村氏の著書は、總べて實驗に基づき、已むを得ざるものありて慨言するに成る、其の特色と云ふべき也。殊に、立志の礎あり、意氣尤とも軒昂、此書反つて質實太はた沈重なる所以のものは、其修養錄なるが故なり。讀者仔細に分別するを要す。世に或は、其所言を曖昧なりとするものあり。如此きは、言語道斷の自得を記るすに慣れず、一概に論議を辨するとをのみ常とするが故なり。古より徹悟微笑の消息を記るしたる文章は、議論家の皆な見て曖昧なりとせる所ろなり。

○女大學評論 新女大學

福澤先生著合本。時事新報社、發兌。

曩に、時事新報紙上に掲載せられたるものを、今ま一册として發兌さる。當時すでに小評を試ろみたる如く、此書は先生の筆鋒少こしく苛薄にして、醇厚の態を欠き、益軒先生の立訓を評するものとしては、稍や見劣りせられたり。然し乍ら、有力なる先生によりて女界、一大雄辯を得たる幸福は、深く感謝せざるべからず。

○文藝小品

內田貢氏著。博文館發兌。

當年の不知庵主人博聞强記をもて鳴り、爾來十年屹々休めず、著術の名に倚て今益々盛んなり。此間に成れる隨筆小品を一集して玆に讀書社界に獻じたるもの、多色多趣味、而して思想經歷の跡を明白に鑑く。種々のインテレスト、種々のサツゼツションとを與へて太はだ益あり。

○ペスト

石神亨氏編。丸善書店、發行

大阪私立傳染病研究所長石神亨氏の編次、北里柴三郎氏の校閱なり。編次太はだ整修、加ふるに東西名家の實驗を拔粹し、且つ尋常讀者も容易に暸解し得べき明亮の筆を以て記述せられたり。刻下尤とも益あるの書なり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

時報

◉野村望東尼謫居の舊跡　幕府の末造に方り、筑前の女傑野村望東尼が、慨然として勤王の志を起し、其平尾山の山莊に、薩の西鄕長の高杉等諸名士を會し、復興の密議を凝らせし事は、光輝あり彩色ある維新史料の一節なるが、同尼が、藩讒を蒙り謫竄せられしは、其の名もやさしき姬島てふ處なり。其謫居の舊跡、今や寒烟荒草の間に埋沒せんとするを憂ひ、同鄕の有志者は、碑を其地に建てゝ、之を後世に傳へんとて、左の檄を發せり。あはれ、當今の品操ある女流は、更にも言はず、鬚髯の男子、苟くも同尼の事績を及知するの士は、奮て此欣慕すべき女性の爲めに一片の同情を寄せよ。

趣意書

野村望東尼は筑前の女傑にして其經歷の如きは姬島日記其他の書籍等に詳なるを以て今叮々せずと雖も維新の際尼が國家に盡したる事績は四方有志の知る處にして遂に慶應二年藩規に觸れ姬島に流謫せられたり而して今や其舊跡は既に荒地となり其事趾も亦將に埋沒せんとす朝廷曩に尼が誠忠を追賞せられ正五位を賜ふ死して餘榮ありと謂つべし玆に我々有志者此女流の一偉人が舊跡の湮滅に歸せむことを憂ひ併せて尼の功績を永遠に傳へ國家思想を喚起せんが爲め牢居の舊跡を保存し紀念碑を建設せむとす冀くは大方諸君此擧を贊助し應分の義捐を給はんことを

明治三十二年十二月

筑前國糸島郡有志發起者

◉各府縣男女犯罪統計　其筋の調査に據り、去る明治十五年より昨年に至る十七年間に於ける全國男女の重輕罪人員を比較對照すれば、左表の如し。之に就て最も注意すべきは、婦人犯罪者の逐年增加し來り、其犯罪の如きも、放火兒殺しの重犯罪、最も多きに居るの一事なりといふ。

年別	男	女	計
十五年	七六、六四六人	五、八一五人	八二、四六一人
十六年	一二九、二三六	一、〇九三	一三〇、三二九
十七年	一四三、八三七	一〇、三七五	一五四、二一二
十八年	一五三、二三七	一二、〇七〇	一六五、三〇七
十九年	一三八、六七一	一〇、九八〇	一四九、六五一
二十年	一一三、六一一	九、五五三	一二三、一六四
廿一年	九四、一七三	七、八六二	一〇二、〇三五
廿二年	七三、〇八五	一〇、九七一	八四、〇五六
廿三年	一二〇、九九五	一五、七九四	一三六、七八九
廿四年	一三五、七五九	一九、五〇二	一五五、二六一
廿五年	一四六、八七五	二一、三一〇	一六八、一八五
廿六年	一五三、四六二	二二、三五一	一七五、八一三
廿七年	一六〇、八七三	二四、二七六	一八五、一四九
廿八年	一四九、一一三	二二、六〇五	一七一、七一八
廿九年	一五〇、三一八	二〇、六七七	一七〇、九九五
三十年	一五四、八二八	二〇、八八五	一七五、七一三
卅一年	一五四、六一八	二〇、四八七	一七五、一〇五
合計	二二四九、三三七	二五六、六〇六	二五〇五、九四三

羽子板の製造と相場	時事新報(十二月三十日)
娼妓を外人の宅より擒出す	時事新報(十二月二十九日)
令孃鑑(水野淸子孃)	千代田日報(連載中)
家庭叢話	上野民報(十二月連載)
ウオード夫人	人民(十二月廿六日)
福澤翁の新女大學を評す	毎日新聞(十二月廿六七日)
巴里の婦人	國民新聞(十二月廿八日)
婦人衣服の論評	やまと新聞(十二月廿六日)
日本家庭論評	毎日新聞(十二月三十日)
家內の經濟(牛乳搾取、賣藥及化粧品店、新炭屋、おでんや、經師屋)	
家庭の敎育	万朝報(連載)
孝女勝子	讀賣新聞(一月一日以后)
夫人の力(社會淸德の發揮)	千代田日報(一月一日以后)
將來の女子敎育(下田歌子述)	報知新聞(一月三日)
才媛美談(一條經子孃)	人民(一月一日)
美人の顏	千代田日報(一月一日)
婦人速記者、婦人論、槇田ノブ	國民新聞(一月一日)
伊太利國皇后陛下の御榮德	時事新報(一月一日)
當世女大學	日本(一月四日、)
母と子	人民(一月六日)
阿母之友	時事新報(一月六日)
家庭敎育談	報知新聞(連載)
	千代田日報(一月六日)

文學雜誌 自第四百七十九號至第五百二十號 總目錄
宗教に對する超然內閣
擾海府除夜(一)
三三三一 擾海府除夜(二)

女學雜誌 自第四百七十九號至第五百二號 總目錄

明治三十二年度

◎口繪

單税太郎ガルスト、 第四百八十九號

◎社說

新正一轉の心 一
年々の成長 二
田家の煙(進詠)(湯谷磋一郎) 四
英と昏と支那(白郷の來遊と歡迎) 三九
臺灣別莊論 四二
同志社 四二
李、春畝先生に一言す 四三
增税案通過の祝杯 四四
藩閥の感慨に去れり 四四
海舟先生の日常(上) 七五
荒野の一人ずまい 七八
海舟先生の日常(下) 一一一
議院の收賄と家政 一四九
『海舟餘波』發兌の辭 一五二
理勢論 一八七
「海舟餘波」公版の微意 一八九
笑ふべき內地雜居の準備 二三三
下婢養成所成立の好時機 二二五
女大學 二二七
外國人何の爲に來遊するか 二五九
當今の腐敗何かあらん 二六一
支那の爲めに憂ふるを止めよ 二六四
婦人論の流行に威張る可らす 二九五
新嫁入仕度 二九七
高等教育會議今奈何 二九九
俗吏の習慣を承知すべし 三〇〇
耶蘇教と國躰 三〇二
宗教に對する超然內閣 三三三
續海舟餘波(一) 三三五
教育界二個の新若手 三三七
新日本の武者何處にある 三七一
私生兒を憫れむ(櫻井鷗村) 三七二
續海舟餘波(二) 三七三
豈唯門閥の男子のみならんや 三七六
萬國婦人平和會の連合 三七七
栃木縣の廢娼建議 三七八
足尾銅山鑛毒處分要求の陳情(田中正造) 三七八
別辭(櫻井鷗村) 三七八
宗教公認論 四〇九
基督教界時勢論問答 四一〇
續海舟餘波(三) 四一五
男女の關係 四四七
大學增設は總長を撰むにあり 四四九
續海舟餘波(四) 四五一
支那人雜居問題 四五二
自責自任の氣慨 四八九
續海舟餘波(五) 四八八
基本金募集論 四九一
私立學校令 四九四
留學生に親切を盡すべし 五二三
基督教に關する問答 五二六
續海舟餘波(六) 五二八
海外に行く日本人の誤謬 五三一
日本公使館領事館の妻子 五三二
學生夏休の壯遊 五三三
教育宗教分離の訓令 五六一
續海舟餘波(七) 五六六
鑛毒地方可憐の婦女子 五九九
曰く、婿を買ふと 六〇二
續海舟餘波(八) 六〇二
鬼面百相の辨(青柳有美) 六〇四
一葉女史を追懷す 六三七
浮華逸樂の弊風 六四〇
續海舟餘波(九) 六四三
古の武育、今の體育 女子體育論を評す 六七五
續海舟餘波(十) 六八〇
一代の花役者 七一五
廢娼論辨 七一九
秋氣靜感 七五三
物價騰貴の大勢 七五四
學校系統問題 七九一
又一年 八二九
結婚の理想墮落せんとす 八三〇
歲末勸言 八六七
年暮隨感 八六九

◎家庭

心の規律 九
躰の規律 一〇
伊藤圭介翁の家訓 一二
花園隨筆(紫琴女史) 八三
料理と國民(櫻井鷗村) 八八
花園栄圃の春 一五二
春眠のあかつき 一五三
前途の景氣奈何 一五四
花園隨筆(古在紫琴) 一五六
兒を失へる記(岩野泡鳴) 一六一
花園隨筆(紫琴女史) 二三三
男兒の早く好くはなし 二三五
兒童に對する命令と獎勵 二三五
幼時に於ろ衣食住の程度 二三六
親孝行は子孝行より起る 二三七
近松女氣質(其四)(櫻井鷗村) 二三九
女子の道(福羽美靜) 三〇四
安心和合は理財の基 三〇六
大儲は大損の種 三〇七
妻の不平(拙なき賤の女) 三〇九

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

家庭のほゝえみ	三八五
妻の不平(世に慣れぬ一男子)	三八六
夏野の草々(紫琴女)	四五五
徳川家康が子孫の庭訓(山下石翁)	四五八
妻の不平(奥州白石の一婦人)	四六〇
笑の文學(無識庵主人)	四六一
恥の文學(其二)(仝人)	五三五
妻の不平(再嫁のやもめ某女)	五三八
家庭の死別(痛の事實、逝きし我兒を懐ふ、從妹を哭す、 知津子)	五四〇
古教新習(一)(山下石翁)	五四四
夫婦恨(是空子)	六一八
家庭のまぢりもの(稚翁)	六二〇
愛なき兒童研究	六二一
妻の不平(某筆記)	六二三
美神の結婚觀(天行)	六八六
肺病の方々(肺を病める一婦人)	六八九
「かつら下地」の女役者	六九一
先づ捐てざれば獲ず	六九二
妻の不平に就て(巖本露草對話)	六九三
富める女を娶るべし(青柳有美)	六九六
厨房の宗教(長非金風)	六九九
花役者の家庭	七五六
怒り易き人に告ぐ(青柳有美)	七五八
家風と育ち(紫琴女)	七六一
空聲非一(短歌三首)(さき子)	七六二
肺病は不治の病に非ず(無識生)	七六三
青齋庭訓(山下石翁)	七六五
桑の葉食用の實地試驗(佐藤庄五郎)	七六六
身體保全法	七七〇
家庭の風波、唯一の舵	八三九
友白髪の感謝	八四一
迷ひ道(左琴女)	八四四

◎女學

東西音樂比較の問答	四四
家族病理(下)(社會醫學生某)	四九
花園隨筆(古在紫琴女)	一一七
上眞行氏の音樂談(青柳有美記)	一二四
近松女氣質(其一)(櫻井鷗村)	一二八
近松女氣質(其一、二、三、)(櫻井鷗村)	一九一
田舍に於ける嫁様(紫琴女史)	二〇〇
歌三首(山寒月、暮山眺望、雨後冬月、)(池袋清風)	二〇三
近松女氣質(其四)(櫻井鷗村)	二六五
卒業の女學生に告ぐ(青柳猛)	二六九
誤易き女學論	二七〇
校内無覺の感化	二七二
嫉妬心の研究(無識庵東根)	三四八
妻の不平(名も無き賤の女)	三五二
近松女氣質(其五)(櫻井鷗村)	三五四
笑の文學(其一)(其二)(無識庵)	四一六
少年のよみもの(會話筆記)	四二一
妻の不平(懺悔)(露子)	四二三
高等女學校長會議	四二五
男女交も教ゆるは自然なり	四二七
平和會に不贊成の理由ありや	四二八
笑の文學(其三)(むしき庵)	五〇〇
恥の文學(其一)(むしき庵)	五〇一
佳人七つ道具(青柳有美)	五〇二
血族結婚の弊害(井上通泰)	五七一
あさがほ(左琴女)	五七四
全國高等女學校一覽表	五七六
女學と宗教	五七七
新女大學の評(山下石翁)	五八〇
亭主の不平(髫軒筆記)	五八一
職業と人情の關係(山形東根)	六四九
兒童研究に就て(久津見蕨村)	六五二
盛んに外國人と結婚すべし(次郎)	六五三
女學生に對する批評	六五四
少女(滿四歳の女兒)と對話(巖本露草)	六五六
瀬様(有邪無邪)	六五八
男女氣質(紫琴女)	七二五
女子の實業教育(無識庵東根)	七二八
失戀の人に告ぐ(有美)	七三三
新に學校を起す者に告ぐ	七三四
女學の方針及主義	七三六
女學生諸君への小忠告	七三七
痴漢駿馬に跨り、佳人醜夫に侍る	八一〇
男子の無禮	八一三
教育界の惣失敗	八一四

◎評論

廿世紀前一年の新年觀(無識庵)	五
當今の弊を論ず(八木文郷)	五四
村翁時勢談	一三一
明治三遷論(靜淵學人)	二〇三
鬼面佇相(第二)(青柳有美)	二〇九
惡人心理學	二七二
藤村子詩(青柳有美)	二七五
福音新報記者の海舟先生評	二七八
時事評論(山下石翁)	三四〇
佛蘭西革命の無意義(青柳有美)	三四三
女學雜誌は大乘に過ぎたり(山月子)	四二八
逆境福音(東根學人)	四二九
正氣歌中の人(雪嶺、田中正造氏を論ず)	四九四
海舟餘波を讀みて(山月子)	四九六
帝國主義	四九八
諸種の人生觀(山形東根)	五六七
時事評論	六四六
生命保險の研究(布川靜淵)	七二二
幽靈の電氣學的說明(青柳有美)	八〇〇
教育宗教隔離の內訓	八五八
當年一歳の回顧(山形東根)	八七一
歲末『死』觀(青柳有美)	八七七

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎講義

本邦救荒の來歴(藤井米八郎) 九五
老子女訓(下) 一七二
蹤跡の社會に及ぼす現象(九六生) 二二八
涙の文學(無識庵靜淵) 三七九
婚姻族類其他の統計(布川靜淵) 六一二
女學生の小說を讀む利害(山形東根) 六八二
老子若解 七七一
黑死病談(布川靜淵) 七九五
女裝太夫の說(青柳有美) 八四七

◎史傳

基督降誕の夜の景色 一二
基督降誕祭の祝文(福迫馬陵) 一一八
日本武尊(有美) 九一
讀史隨筆(一)(如雲學人) 五四五

◎教育

教育界呼感(東根學人) 二七九

◎文藝

藝、神に入る(櫻井鷗村) 一九
音韻の害弊(青柳有美) 二〇
評釋許六が旅の賦(長汀曲浦) 三一二
禪道幽旨 四六四
柔山子乃舍社中詠草(柔山子乃舍主人) 五四六
柔山子乃舍諸社中詠草 六〇九

◎大磯だより

初夢(中島俊子) 六〇
梅と松(湘煙女史) 一〇五
哄笑一番(湘煙女史) 一七七
長城居士の臨終(如雲記) 二四九
大磯だより(湘煙女史) 六〇七
十一月三日、晴、金曜日(湘煙女史) 七八二
中島湘煙女史談話(青柳生記) 八〇三
十一月廿四日(中島湘煙) 八四六

◎通信

樂しき香港、美しき香港(在香港)(玉輿府) 四四一
女社會學通信答報(落葉生) 四四二

◎亞米利加だより

異國の秋(櫻井鷗村) 八三一
北米紀行(第一回)(櫻井鷗村) 八三三
◎蠻歐月に聲あり、◎魚腹藻府◎桑港の婦人
北米紀行(第二回)(櫻井鷗村) 八八〇
◎桑港の日本婦人◎婦人ホーム◎ミルス女子大學

◎隨感

◎除夜會◎怪しき述懷◎長恨の佳人に問ふ◎
卓識なし手腕なし◎吾輩に賢を增さんや 二八
海舟先生逝く 五八
夜半母の思ひ 一〇五
草木國土靈性あり、◎殺生の遊び◎淺ましき
人の終◎天父の慈愛◎矜恤あるものは福なり 一三六
歎の價値◎慷慨の價値◎立節の價値◎價値の
價値
春の夕ぐれ◎ラザロよ出よ◎勞役の風流◎名 一七八
士の初對面◎國家の爲め 二一七
花ならぬ華◎天下人世のひろさ◎自から安ん
ぜざるの法◎何事にても成さんとの自信◎蠻
勇 三二四
情花胡蝶を呼ぶ◎心霧面上にかゝる◎天上の
鳥、野の百合花 三五八
風光樂事多し◎忍ぶ草◎小人◎大磯だより 三八九
個々銘々の天の使◎大山獨樂、大谷獨酒、◎聖
なる秘め事◎大哲學者は學者にてあらじ◎蝶
よ花よ 四七九
靈性の感應◎鎮撫の術等々段々あり◎松も亦
たゞならずや◎奮諦吟◎穩健なる成効◎御心
を知る◎品格の果し合◎活ける眞理に吸ふ、
樂しひ哉◎雜草の美 五一六
成敗利鈍を顧みずとは何の意ぞ◎平安氣樂◎
面白し、亦面白くなし◎さすらへる犬 五五六
綠陰獨嘯◎靜境亦戰ひあり◎動中の靜、靜中
の動◎佳人歎きあり◎識られざる廣き世界◎
聰明兼ねがたし◎福音◎奸雄◎蠻勇 五八三
衰へたる牧師道◎庭の石燈籠◎燈火明滅 六二五
螢の文學◎人事生物學◎悟れる人たゞ迷あり
◎基督教易占◎理想男子◎仲秋無月 六七〇
死の說法◎秋の夜の鬼◎語を寄す無名の傑士
◎心機無事 七〇九
秋夜讀書◎自特育行錄◎自由傳道來歴一斑 七四七
何をか一大事とする◎未だ公心あらざる時◎
想ひ思ふ相ひ信ず 七八五
無我無慾なる大不平家◎優しき乙女心中の不
平◎尚早論、優劣論◎冷性熱血 八二四
清濁併せ存らふ◎慨然として任ず◎獨舞臺◎
倘は血涙ありや◎泣き笑ひの苦節 八六三
心外無別法の情義◎年配三等段◎早老の隱因
◎我心席にあらず◎路上憫れむ可き老者◎夢
物語◎外資輸入◎内資輸出◎教旨等々段◎夜
々誰の靈心か通ふ◎獨り樂むの途は多し 八八五

◎雜錄

評釋『戀八卦柱暦』(八濱拗泉) 二三
埠頭の佳人(青柳有美) 六一
子を思ふの愛(櫻井鷗村) 六三
飯坂溫泉に遊ぶ(仙臺無名生) 六五
今昔美談三則(曲浦) 六七
紀元節の一生面(馬陵生) 九八
評釋『戀八卦柱暦』(八濱拗泉) 一〇〇

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

二つの微笑(有美) 一五八
鬼面百相(其一)(有美狂生) 一六四
雪(新体詩)(三輪花影) 一六九
嗟我ホーム(澤泉女) 一七〇
庭初霜(池袋清風) 一七二
單税太郎ガルスト氏(青柳猛) 二一三
鬼面百相(其三)(青柳有美) 二四五
銀線(小說)(無名氏) 二八一
別れ(新体詩)(花影) 二八五
江榮山色(泉郎) 三一六
鬼面百相(其四)(青柳有美) 三一七
近松女氣質(其五)(櫻井鷗村) 三二一
いかづち物語(一)(久保ゐ之吉) 三六二
戀(?)の魔歌(青柳有美) 三六四
鬼面百相(其六)(青柳有美) 三九一
四の折(新体詩)(紫兇) 三九六
いかづち物語(二)(久保ゐの吉) 三九六
四の流れ(新調詩)(巖本露草) 三九八
ムーアがラストローズの歌を讀む(花影子) 四三二
いかづち物語(三)(久保ゐの吉) 四三四
彼岸小勝(短文)(泉郎) 四三七
鬼面百相(其七)(青柳有美) 四三七
鬼面百相(其八)(青柳有美) 四六八
竹本素行を訪ふ(小川桃花) 四七三
農夫(新体詩)(泉郎) 四七八
海舟先生逸話(一) 五〇七
十三年振りにめぐり會ひし婦人に贈れる書(無名氏) 五一〇
いかづち物語(其四)(久保ゐ之吉) 五一四
本邦男女に關する道德統計(東根) 五四九
鬼面百相(其十)(青柳有美) 五五一
惡魔の結婚觀(青柳有美) 五八七
いかづち物語(久保ゐの吉) 五九〇
文書く時(靜淵) 五九一
拾ひ紙(新体詩)(翠) 五九三
病床に夢む四の處女(新調詩)(巖本露草) 五九四
鎌倉より(短歌數種)(紫兇山人) 六三六
惡魔の雅歌(惡魔の子有美) 六二九
春花秋月(述懐小說)(露生) 六五八
些事些言(無識庵主人) 六六三
對々熱海の迷ひ日記(其一)(有美) 六六五
惡魔の子が詞にならひて(瑞溪子) 六六七
湖甲山の夏景(松山高吉大人作) 六六八
六上を渡り眼みし蜻蛉に寄す(岩野泡鳴) 六六八
秋夜漫言(紫琴女) 七〇一
高野山と愛情と(左琴女) 七〇三
嘘、高踏詩人北村透谷(藤原北嶺) 七〇五
對々熱海の迷ひ日記(其二)(有美) 七〇六
同人社小引(其二)(其二) 七三八
悲哀の人を慰むる辭(岩野泡鳴) 七四〇
勝海舟先生高談 七四二
對々熱海の迷ひ日記(其三)(有美) 七四三
日本貴婦人の洋裝(有美) 七四六
腰より流行と袴に靴(有美) 七四六
東京座慈善演劇(有美) 七四八
海舟先生高談 七七五
對々熱海の迷ひ日記(其四)(有美) 七七八
もみぢの葉(四の一女史) 七八〇
同人社(三、四、五) 七八二
海舟先生高談 八一七
永源寺遊記(岩野泡鳴) 八一九
對々熱海の迷ひ日記(其九)(有美) 八二一
迷鄕(新体詩)(天行雲士) 八二三
『冬』の觀(山形東根) 八五〇
琴の音(新体詩)(天行) 八五三
對々熱海の迷ひ日記(其六)(有美) 八五四
西都もみぢ寺(東福寺、西明寺、神護寺、高山寺、林纛寺)(巖本露草) 八五七
海舟先生高談 八八九
對々熱海の迷ひ日記(其七大尾)(有美) 八九一
同人社(其六)(其七) 八九六
戀歌(惡魔の子) 八九七

◎時事

新年新希望あれ(櫻井鷗村)◎明治音樂會の昨今(有美)◎駿河臺堂の合習(全人) 三一
農工商の衝突(東根)◎內地雜居と女子教育(鷗村) 七〇
所謂內地雜居準備とは何ぞ(鷗村)◎當議會(井上次郎) 一四〇
博士森田久萬人先生(門人青柳猛)◎宮城たより(澤泉女) 一八〇
評判記(音樂學校學友會演奏會●橋糸重女史と瀧廉太郎氏●明治音樂會第十二回演奏會●明治美術會油繪彫刻展覽會●三宅克巳氏作の水彩畫●團菊合併演劇●圓朝と圓遊●救世軍のブース參謀上官●卷煙草の賣れ口●松村介石氏の論旨免職●頸ハンケチと河村清雄氏展覽會)(有美) 二五二
時事新報の女學論◎學生品行の墮落◎教育家と藝妓 二九〇
女學論の爭(鷗村)◎私立學校令 三二七
樂評手前味噌(●音樂學校春季演奏會●同聲會春季演奏會)(青柳生) 三六五
娼妓廢止議書(足利友愛義團)◎喋々怪事(●小幸田子の海外留學●中央會堂慈善音樂會●新流行の夏帽子●樂石生樂評ー縫す●渡邊文三郎氏の狩野風●劇場人道具の批評●錦繪の色合內變せんとす●明治音樂會の新演奏●樂聲會規則(有美) 四〇〇
小坂象堂子を悼む(有美)◎興行物の大人と讀書(有美)◎めくら長屋の評判むすめ(有美)◎西本願寺亦人ある哉(キリスチヤン) 四四三
加藤さし子逝く◎松田道子歸朝 四八二
女學校の夏休◎內地雜居◎本年の米作如何◎女子獨立學校◎海邊ノ避暑◎市川女寅(有美)◎晚翠のから評判(有美)◎藤村死せる乎(全人)◎不具の見せ物(全人)◎美妙齋主人(全人)◎文士の求婚(全人)◎靄士小堀鞆音(全人)◎醜之助の技(桃花)◎女子之友記者に答ふ(小川桃花) 五二〇
松本荻江女史逝く(下田歌子弔文) 六三〇
晚翠の開書(有美)◎明治音樂の爲に◎白馬會と綸畫共進會(以上有美)◎豐竹呂昇(桃花) 六七二
娼妓營業廢止起訴及勝訴の事◎ピアソン夫人長逝◎姬百合と日本婦人◎最近の演奏會(有美) 七八七
宗教法案◎宗教教育隔離內訓に對する米人の反動(全人)◎明治音樂會納會(有美)◎猿之助と花橘(全人) 八六四
◎橋糸重女史(全人) 八九九

◎寄書

十六夜日記を讀む(淺野すゞえ) 二八八
暮れ行く春の哀を思ふ(知津子) 三二六
浮世の光(新体詩)(藤原母村) 三二六
海舟餘波を讀む(本多庸一) 四〇〇
戀愛を論ろいて亡き友を忍ぶ(白百合) 四四〇
日本演劇に於ける伴樂器の性質(巖本露艸) 五一九
曉想君(面白の演邊の紅法師) 五五九
強盜竊盜火附の王子(原胤昭) 七四九
袖の涙(新体詩)(白百合) 七八六
黃吻錄(寺院●スキナ物●故鄉の森)(舟畔生) 八二六
見ぬわかれ(月野美代子) 八六一
神戶教會婦人會に謝するの辭(朝比奈天行) 八九七

◎新刊書

◎新雜誌

◎時報◎片々

廣告

明治女學校受捐金廣告

金三百圓(基本金) 足利町 荻野文八君
金二百圓(同) 同 原田定助君
金百 圓(同) 同 荻野万太郎君
金百 圓(同) 同 原田政七君
金五拾圓(同) 同 岡崎治三郎君
金五拾圓(同) 同 川井運吉君
金三拾圓(同) 同 原田金三郎君
金三拾圓(同) 同 井上靜雄君
金三拾圓(同) 同 市川安左衞門君
金十 圓(同) 同 木村半兵衞君
金十 圓(同) 同 岩根利信君
金十 圓(同) 同 脇田福太郎君
金十 圓(同) 埼玉縣 伊藤力次郎君
金十 圓(同) 足利町 藤沼覺藏君
金十 圓(同) 同 荒井雄太郎君
金十 圓(同) 同 荒井昌三君
金十 圓(同) 同 山口仁十郎君
金十 圓(同) 同 本島善作君
金五 圓(同) 同 田部井猪子君
金五 圓(同) 同 天田覺太郎君
金五 圓(同) 同 門田久俊君
金五 圓(同) 同 白石理三郎君
金五 圓(同) 同 山口米太郎君
金五 圓(同) 同 柳田武一郎君
金五 圓(同) 群馬縣 伏島訊三雄君

金五 圓(基本金) 足利町 初谷豐作君
金五 圓(同) 同 石川高吉君
金五 圓(同) 同 須永勇藏君
金五 圓(同) 同 四村槌平君
金三 圓(同) 同 新居倉造君
金三 圓(同) 同 田村彦七君
金三 圓(同) 同 中島新吉君
金三 圓(同) 同 阿部庄兵衞君
金三 圓(同) 同 青木甚三郎君
金三 圓(同) 同 植田專次郎君
金三 圓(同) 同 酒卷仁兵衞君
金三 圓(同) 同 本山幸三郎君
金三 圓(同) 同 後藤有恒君
金三 圓(同) 同 武居一郎君
金三 圓(同) 同 大竹秀三郎君
金三 圓(同) 同 竹内兵三郎君
金三 圓(同) 同 丸山くに子君
金三 圓(同) 同 關屋諒藏君
金三 圓(同) 同 岩井由右一君
金二 圓(同) 同 今尾定子君
金一 圓(同) 同 松葉清三郎君

金壹百圓(供養義捐) 米國 伯爵陸奥廣吉君
金三 圓(供養義捐) 東京 小林富二郎君
金五 圓(供養義捐) 札幌 段清吉君

故若松賤子女史譯述

再版 小公子

全一冊洋裝美本
紙數三百五十頁
正價金三十五錢
郵稅 八錢

近代歐米の讀書社界を震動し、劇場に演ぜらるゝと數十百回、一代の流行を左右して、一時年少の子をして悉皆小公子の如くならしめしと云ふは、此書原本奇代の勢力なり。純潔無邪氣、天使の如き一少年は、頑陋執拗の老侯爵を感化す、傍に隣あり、母に佳人あり、貧しきを憐み、小作人を愛撫し、言行惣く甘露慈雨の如し。讀去り讀來るうち讀者亦自から化せらるゝを覺ゆ、何ぞ其の可憐潔なるや、少年固より讀まざる可らず、婦女老人亦讀まざる可らず。賤子女史曩に其前篇を譯して世に公にするや、譯文の巧妙を以て亦た一時に喧傳す。森田思軒居士之を以て明治年間譯文の最上乘のものとし、激賞措かず、曾て其第一頁を見て忽ち驚き、一夜通讀、曉に徹し遂に卷を棄る能はざりしと云へり。然るに女史其後篇を公にするに及ばずして不幸長逝し、知人愛惜の情を寄せらるゝと切なり。即ち曩に其遺稿を收め、女史が一周忌日に會せんとして前後二篇を合せ刊行せしむ。其友湘煙中島女史は字を題し、鄉友松井昇氏は畫を附せり、同好の士、希くは一讀を賜へ。

出版元 東京日本橋區本町三丁目 博文館

大賣捌 東京巢鴨村庚申塚 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

明治三十二年五月十五日遞信省認可

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治三十二年五月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY